

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成24年度執行）

池田地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
		説明									
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
地域コミュニティ紙等発行事業	401	補助金 401	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	池田地域コミュニティ推進協議会の活動内容や、地域の身近なニュースなどを地域住民にPRするため、平成20年度から継続事業としてコミュニティ紙（「コミュニティ通信・いけだ」A3版）を年3回全戸配布する。	地域の全世帯(6,800部)だけでなく公共施設(200部)をも対象に加え、1回当たり計7,000部に増刷し、8月1日(第15号)、12月1日(第16号)、平成25年4月1日(第17号)の計3回、全冊カラー版として発行し、池田市広報紙に織り込んだ。	平成24年度の記事掲載からは、より市民目線に近づけることを重視し、ニュース、ソースを集めた。更に目に留めやすくするという意図で、全冊カラー版を発行している。 第15号では「がんがら火特集」を、第16号では校区内でコミュニティ活動行「学生特集」を、第17号では装い新たに「池田小学校校舎・阪急文庫側溝」の特集を組んだ。又、双方向を重視する意図で、「町会、自治会便り」をとり入れたが大変好評を得ている。	より多くの方々に関心をもたれるように、ニュースソース並びに紙面のさらなる刷新を含めて積極的に取り組んでいきたいと考えている。地域住民約6,800世帯から注目を浴びる紙面作りを目指したい。			地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費	
地域掲示板設置事業	1,040	修繕料 1,040	地域内の統一した掲示板に取り替える。情報の伝達とまちの美化につなげる。	平成20年の事業計画時には、校区内に大小あわせ30箇所を計画し、その後平成20年度から平成23年度の4年間で、26箇所の設置を終え、ほぼ計画通りの進捗状況にある。	平成24年度は取替え・移動・新設6箇所を計画し、計画通り設置を終えた。 綾羽2 五月山派出所上 栄本町 託明寺前栄本町公園入口 城山町 逸翁美術館北側 栄町 駅前てるてる広場西側 城南3 ザ・ライオンズマンション西側 城南 光明公園西側 以上6箇所に配置した。	新設や取替えで設置場所が増えたこともあり、コミュニティ関係掲示物や公共広報掲示物が注目され、掲示板効果が評価されるようになった。池田地域コミュニティ推進協議会名が明示されていることもあって、当協議会の事業活動としても評価を受けている。	平成20年度から始めたこの事業も、今年度で当初の計画通り32箇所総てに設置を終えたので、本事業は終了とする。 今後の課題として、破損等によるメンテナンス、リニューアルが必要とされるが、その対応が求められる事になる。			地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費	
池田地域コミュニティ推進協議会事務所運営推進事業	580	補助金 580	協議会の事務所に専任の事務職員を置き、作業や外部からの通信、来訪等に対応し、活動の円滑化を推進する。	協議会内の各部会と部会内部等の密接な連携を図ることができなかったため、連絡等が滞り伝わることもあり不手際が目立ったことがあった。	事務所を開設していただいたため、上記に関する事務処理及び連絡等々がスムーズに実施されるようになりました。(主に電話、FAX、メール等々またはホームページによる活動状況等にも大いに利用されている)事務員の配備により特に小さな絵本館との連絡も密になって喜ばれている。	小さな絵本館をホームページに転載したおかげで、パートによる読み聞かせ人員の募集にも大いに貢献したりして重宝しております。 コミュニティ及び各自治会による行事もHPに掲載していることで、自治会の方々にも利用されているようです。	今後、将来に向け、少しでも活動できる人材を確保するのに苦慮している状況は、各校区にも言えることであるが、各校区とも連携をさらに深めることが必要であると厚く思われます。			地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費	
地域自主防災体制強化事業	1,800	器具費 1,500 補助金 300	新設自主防災・防災組織2団体への資機材配備及び自主防災・防犯組織を中心とした合同防災訓練を実施することにより防災体制の強化を図る。	校区内18町会・自治会のうち8自主防災会(対象町会・自治会数は10)が組織化・設立され、6自主防災会への資機材配備が完了。	1. 今年度新たに2自主防災会(槻木町・上2)に、1次資機材配備を行った。 2. 10自主防災会参加の合同防災訓練の実施	校区合同防災訓練等に依り、未結成町会・自治会に好影響を及ぼし、新たに3自主防災会(綾羽町・新町・城山町)が立ち上げられた。	1. 未設立町会、自治会にはそれぞれ事情があると考えられるので、設立への働き掛け、関与の度合いが難しい。 ・機運の盛り上げ・単独での設立・既隣接組織との合併等に対しては提案はすべきと思うが、 2. 全自主防災会の仲間うち的な連絡会を立ち上げていただく。 ・次年度の合同防災訓練は、自主防災会主催での実施を目標とする。			危機管理課 安全防災事業費	
地域防犯推進事業	300	補助金 300	地域住民の安全安心な生活を確保するため、専門家による具体的な保身術の講習会を開催する。	校区内住民を対象に年1回の講演会を実施したが参加者が非常に少なく、所期の目的を達することが出来なかった。	地域分散での実施を試みる。 保健福祉総合センター 槻木町会館 コミュニティセンター	交通安全運転講習会には時間設定が幸いしたのか150余名の参加をみた。 スライドを中心にした構成であったので、全員が良く理解できた。子どもたちも事故の恐ろしさがよく分かった、怖かったとの感想もあった。	関係部署の勤務の状況から住民集まりやすい曜日・時間帯の関係が難しい。分散開催は一考の必要あり。			危機管理課 安全防災事業費	
マイタウンプロジェクト(MTP)フェスティバル実施事業	350	補助金 350	中学校関係者が中心となって進める住民交流の事業を支援する。MTPは春と秋の2回、地域の子どもから大人までが楽しめる催しを開催する。	開催のチラシ等の配布が学校関係でしか出来なかった為、校区全域に行き渡らなかつたので地域の方々の参加が少なかった。	校区全域で開催チラシ配布が出来、フェスティバルを盛り上げれる様になった。	フェスティバルの知名度が上がり、活動を応援して下さる方が増えた事で、このフェスティバルがMTPも地域との繋がりを大事にしている活動である事をアピール出来ました。	規模を広げたり、派手にする事よりも地域の皆が楽しみに出来るふれあいの場であったり、池中の卒業生も集まってきて地域の方々との再会を懐かしめるような場になるよう、次世代にもつなげていけるような土台をしっかりとつくりたいと思っております。また、コミュニティの事業提案を来年度の各学校の行事が決まる前にしなくてはならない為、当初の思惑から変わる場合があるので、今後はフェスティバルに限定せずに活動を支援する事業提案にするのがベターではないかと考えられます。			観光・ふれあい課 地域活性化事業費	

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成24年度執行）

「ちいさな絵本館」推進事業	1,481	補助金 1,481	絵本の読み聞かせを通して地域住民の世代間交流の場を推進する。事業の拡充を進めるに当り、スタッフを募集する。絵本に関するセミナー等を定期的に実施し、利用者間の交流を積極的に推進する。	2階の改修工事も完了し、H22年9月開館以降初めて通年開館が出来る状態になった。	1. 備品の配備・インターネット加入等、会館運営に必要な最低限の設備は調えられた。 2. 蔵書増冊に予算配分をしてきたので、蔵書数は1944冊になった。 3. パソコン導入・インターネット加入で管理業務・事務連絡等が効率的になった。	1. 清潔感のある空間として、利用者に喜んでもらっている。 2. 絵本は新品が多いこと、古本でも状態の良い本を蔵書していることが来館者に好印象を与えている。(補修もすぐに対応している) 3. 図書館には幼児は連れて行きにくいのが、当館は幼児連れがおおいので、多少の騒がしさにも理解があって利用しやすいとの声が多い。 4. 来館者の知らないような絵本があって喜んでもらっている。 5. 来館者の絵本探しに対応することができている。(ボランティアスタッフの努力による。) 6. 来館者のブログで、ほっこりして楽しい空間であることを紹介していただけた。 7. 来館者数3526人(保護者1538人・中学生18人・小学生344人・幼稚園児409人・乳幼児947人) 8. 貸出し3000冊超。	1. 市内在住の形でも、絵本館を知らない人が多いので、周知に工夫が必要と考えられる。 2. 大人の方が一人でも気楽に利用してもらえる空間作りも考えなくてはいけないのかな？ 3. 小学校にあがると途端に絵本館から離れてしまう傾向が見られる。小学生向けの蔵書も数多くあるので、小学生と絵本館とのつながりをもう少し強くしていける方法を考えていきたい。	各自治会、自主防災組織及び協議会内の部会で評価し、協議会役員会で最終照査をしてまとめる。	計画的に自主防災組織を立ち上げるべく関与していることを評価する。今後も引き続き体制を強化されることにも、合同防災訓練の開催やちいさな絵本館の運営なども続けられたらいい。	地域に根付いた活動となってきた。絵本を通じて、身近な場所でも身近な人と過ごせる空間は将来の子ども達の読書力につながり、また親にとっても地域の人たちと子育てを一緒に楽しむことができる場である。	子育て支援課 保健福祉事業費
福祉さくらまつり支援事業	50	補助金 50	障がい者団体等の活動を紹介する。また、障害者と地域健常者の協働作業を支援する。	公園外を警備するガードマン費用の負担を市より求められましたが、参加団体・事業所の負担が多く、参加を躊躇する団体もありました。	補助を受けることで、参加団体、事業所の負担が軽減されました。	障がい者団体・事業所、その他が五月山公園で、桜見物の地域住民や観光客へのイベント(模擬店・ステージ等)を行いました。 ・障がい者理解に対する啓発活動も兼ねて下記の障がい者関係団体は団体・施設紹介のパネル展示、チラシを配布しました。 ※参加団体・事業所(障がい者関係) 池田市身体障害者福祉会、池田市手をつなぐ親の会、池田市身体不自由児(者)父母の会、池田市精神障害者家族会てしま会、池田市くすのき学園、東山作業所、アルパカ工房、池田三恵園、こすす	福祉さくらまつりは、天候・桜の開花に人出が左右される為、上記以外の出店参加を募ることは難しいです。池田市が主催していたときより規模は縮小していますが、地域の方々には恒例イベントとして認識していただけてる為、今後も継続実施していきよう努力いたします。		補助金により警備費用等の負担が軽減され、団体や事業所が参加し易くなり、障がい者の社会参加と啓発活動の促進に寄与した。	障害福祉課 保険福祉事業費	
道路安全対策事業	874	請負費 874	学童及び一般歩行者の安全確保を目的とし歩道改善工事を実施する。	池田市栄本町3-2 阪急バス停留所前側溝に東西16メートル幅0.35メートル深さ0.4メートルの開口部があり、学童の通学時・一般人の通行・バスの乗降客に踏み外し転倒の危険性あり	未執行 ・関係者の了解が得られなかった為		池小地域懇談会で複数年にわたり通学路危険箇所として指定されていたが、解決をみないので、当協議会で取り上げましたが、民との接衝に於いて行政サイドのフォローが原則なしという状況下では、今後類似案件の協議会での取り扱いは慎重にならざるを得ない。			道路課 土木事業費	
道路整備事業	2,000	請負費 2,000	池田文庫東側道路の側溝を整備して安全確保を図るとともに池田文庫・逸翁美術館・城址公園等を訪れる来街者に街区の美観環境を伴う整備を行う。	生活住環境道路でありまた通学路であるなかで、一般車両・自家用車の往来が多くかつ対向車両もあり歩行者の妨げになっていた。問題箇所が改善されたことにより住民の方々の反応は良かったとのことですが、反対車線のほうも善後策を考えていただきたいとの思いがあるようです。	道路幅員が約20~30cm拡張できた関係で、歩行者および車両の往来がスムーズになった。	事業前住民が車両の往来で、側溝に足を踏み外し足を痛めたことがなくなり、また車両の薄輪がなくなったことは大きな収穫であった。	反対車線の対応と、近隣住民および通行者の認識が一致した顕著な案件であったように思いますが、今後は地域コミュニティで賄える案件と行政サイドで取り扱う案件が吟味する必要があると思われます。		道路側溝を活用する事により、道路幅員を有効に確保できた。	道路課 土木事業費	
市民レクリエーション大会事業	330	行事報償金 330	校区実行委員会が主となり毎年、小学校運動場を会場にコミュニケーションの拡充とスポーツ意識の向上に伴う健康づくりを目指す。	町別対抗がなかったので盛り上がりがあった	町別対抗戦で、町会の力強い応援が各町でわき上がり、盛り上がった。特に「青竹はこび」「町別対抗リレー」「ブロック別対抗リレー」「年代別リレー」でした。 参加者1,200名余	運動会を通じて、各町の方々のまじわり・スポーツの良さを知っていただいた。	スポーツを通じて、人間同志の助け合い・日頃の運動不足を解消していただきたい。町会・子供会に入っていない人も参加出来る様なプログラムを考えていきたい。		池小が耐震工事のため2年連続で池中で開催となった。スポーツ推進委員が中心となり実行委員会を組織し開催する。多くの住民が参加し交流を深めた。	生涯学習推進課 教育事業費	
計	9,306	事業提案限度額	9,306千円								

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成24年度執行）

細河地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
	説明										
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
地域コミュニティ紙等発行事業	290	補助金 290	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	細河地域コミュニティ推進協議会の活動内容や、地域の身近なニュースなどを地域住民にPRするため、継続事業としてコミュニティ紙「細河地域コミュニティニュース」を年2回地域に全戸配布する。	全体的に、コミュニティの事業内容や地域の情報を中心に、より分かりやすく、記事内容の充実にも努めた。	コミュニティ事業などの紹介で、より多くの人々の目を引くようになった。地域の情報など多数取材し、写真入でのコミュニティ誌を作り、地域に啓発できた。	活動PRが足りない。地域住民とのコミュニケーションが必要である。協議会の広報活動もより一層充実させ、活用される様に努めていく。			コミュニティ誌の発行が、協議会活動の向上に起用していると感じる。今後も地域分権の認知度向上に寄与していただきたい。	地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
細河ホームページ作成事業	90	補助金 90	地域の観光資源等の最新情報を更新し、ホームページを通して地域の魅力を発信する。	細河地域コミュニティ推進協議会の活動内容や、観光資源等の最新情報を更新し、地域住民にPRするため、継続事業として月1回更新する。	細河地域コミュニティ推進協議会の活動内容や、観光資源等の最新情報を更新し、全体的により分かりやすく、内容の充実にも努めた。	コミュニティ事業などの紹介で、より多くの人々の目を引くようになった。地域の情報など多数更新し、地域また世界に啓発できた。	協議会の広報活動をより一層充実させ、活用される様に努めていき、ますますの情報発信を進めていかなければならない。			ホームページを開発したことに伴い、細河地域コミュニティ推進協議会の活動が全国に認知されつつあると感じている。	地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
細河ふれあい観光推進事業	770	補助金 770	細河の自然環境や地場産業等を活用し、地域の活性化と、コミュニティ意識の高揚を図る。ほそかわフェアイベント、ハイキングマップ作成、四季写真コンテストのポストカード作成など一連の観光事業を総合的に行う。	池田市民でも細河に来た事がなく、植木産業の歴史ある産地であることを知らない市民が多い。こんな近くに自然豊かなところがある事をPRしよう。	池田市民でも細河に来た事がいない人や、植木産業の歴史ある産地であることを知って頂き、こんな近くに自然豊かなところがある事をPRできた。	あいにくの雨天で細河の魅力を満喫とはいかなかったが、関大生の企画で若い人が多く参加してくれた。	今までは細河全体を知ってもらおう企画をしていましたが、本当に細河の魅力をを感じる方によって、植木畑の季節の変化、植木の管理、田植え稲刈り、天日干し、ホテルの乱舞、野鳥の声、等をアピールしていきたい。			細河という自然豊かな地域の特色を有効に活用した事業といえる。今後も細河をもっとPRしていきけるよう期待したい。	観光・ふれあい課 地域活性化事業費
細河祭り運営事業	200	補助金 200	地域の活性化とコミュニティ意識の高揚を図るため地域住民が細河祭り運営事業を総合的に行う。	歴史ある細河まつり。今年は29回目を迎えた。	歴史ある細河まつりを29回も終えることができ、地域全体のコミュニケーションが図れた。	毎年の事ですが、小学校卒業生や嫁いだ娘さんも里帰りして盛大に開催。余野川の魚つかみ大会は好評でした。	27年度からの小、中一貫			地域の交流に寄与している。今後も、更なるコミュニティの発展に期待する。	観光・ふれあい課 地域活性化事業費
地域内メロディチャイム復興事業	210	修繕料 210	地場産業の従事者から強い要望があり、既存のメロディチャイムを復興する。	壊れたまま放置されている。	午前11時と午後4時のメロディチャイムは機が壊れて細河全体に響き好評で、細河中に響いています。	午前11時と午後4時のメロディチャイムは機が壊れて細河全体に響き好評です。	時間的には迷惑になることなく、故障が起きてもすぐにメンテしていきたい。			地域への愛着が高まると思われる。	地域活性化課 地域活性化事業費
細河地域活性化推進事業	2,500	補助金 2,500	細河の自然環境や地場産業等を活用し、地域の活性化と、コミュニティ意識の高揚を図るため、「みどりの郷」観光案内所の運営、散策路整備及び地域特産品の朝市販売等一連の事業を総合的に行う。	①元細河消防署分団の建て替え廃棄された建物を協議会事務所にリフォームして活用した。場所的には中川原町で郵便局・JA・園芸センター・小学校が隣接し正に細河の中心地である。 ②5台ほどの駐車スペースもあり集会場としては理想的な場所である。 ③この場所を活用しないかとはむしろもったいなかった。 ④毎週土曜日朝9:00～販売開始で客が殺到しバーコードレジスター化のおかげで待ち時間もすくなくなったが、朝一番に40～50人が会計に並ぶ。レジ打ちスタッフを2名と袋詰めスタッフ1名でさばく。 ⑤レジスターを販売場所に移して作業するが、夏の炎天下と冬場の寒時露天に設置する事はコンピューター機械類には適せずたびたびの故障が発生。	①みどりの郷は中川原町で郵便局・JA・園芸センター・小学校が隣接し正に細河の中心地である。 ②5台ほどの駐車スペースもあり集会場としては理想的な場所になる。 ③この場所を活用しないかとはむしろもったいなかった。 ④毎週土曜日朝9:00～販売開始で客が殺到しバーコードレジスター化のおかげで待ち時間もすくなくなったが、朝一番に40～50人が会計に並ぶ。レジ打ちスタッフを2名と袋詰めスタッフ1名で運営し好評である。 ⑤レジ待ち時間に野菜についてのレシピ交換や生産者とお客様同士でコミュニケーションが図れるようになる。	①朝市販売所でもあり、バス停も近く今年度のクールステーションでは63名の方がみどりの郷を休憩所として利用された。 ②細河への散策者も徐々に増えきた。 ③地元の方も畑仕事の合間に立ち寄られコミュニケーションを図る。 ④グランドゴルフ場の申込受付 ⑤固定客も増え、遠方からのお客も増えた。食してきて新鮮さを確認し関東方面の放射能汚染の野菜を孫に食べさせられないと細河で買いためてわざわざ宅急便で送っているお客もいます。 ⑥身体の不都合悪い方には配達サービスも開始 ⑦レジ待ち時間に野菜についてのレシピ交換も生産者とお客様同士でコミュニケーションをとっている。	①みどりの郷がその役目を十分果たすに足りない、維持管理費が高騰する。冷暖房費・水道光熱費・事務機械リース料・修繕費・設備拡充費等 ②常駐スタッフの人員費等 ③細河は露地栽培のみでハウス栽培はありません。従って正月から3月までは全く野菜はありませんし、夏場はお盆明けは10月までありません。 ④1年を通じて商品をていこうするには、仕入販売や加工品販売も考えお客の要望にこたえなければなりません。 ⑤そのために道の駅的な他所の販売店を見学研修し、植木産業だけでなくそれも含めた畑産産を考えねばならない。			観光案内所を運営し、細河地域の窓口としている。また、朝市の開催による地場産業の活性化や散策路の整備による来訪者の増加が期待できる。	地域活性化課 地域活性化事業費
細河高齢者等配食サービス事業	2,000	器具費 235 補助金 1,765	①細河地区の高齢者への週2回(水・金)昼食弁当を申込者へ宅配する事業 週2回といえども必ず本人在宅確認を原則として話掛けている。(安否確認) ②元細河幼稚園を配食センター改修工事事業	①配食サービス事業も開始以来年数を経過したので、受給者高齢者にも理解され順調にコミュニケーションが取れるようになりました。配食製造スタッフ側も業務になれ配達も順調になりました。現在の製造場所が人権センターですので、9:00～12:00の週2日ですので時間的に少なくペースよく行わなければなりません。 ②初めての事で何かにつけて水道・ガス設備の見積もりが予想しにくかった。老朽化した建物で食品化工場に改修には予想外にコストがかかった。	①配食サービス事業も開始以来年数を経過したので、受給者高齢者にも理解され順調にコミュニケーションが取れるようになりました。配食製造スタッフ側も業務になれ配達も順調になりました。	①配食の短時間中止を避けるために、協議会会員が、水道・ガス設備等の場所の草刈り・整地等を積極的にしてもらい業者の施工がスムーズに行われた。これが協議会全体の団結力を高めた事もあります。結果的に配食サービスも一日も休まず続けられました。 ②快適な配食センターが落成し作業もしやすく、従事するスタッフも5名から4名に削減できました。間借りでなく専用センターですので料理により早めに仕込むことも出来配食のメニューにも工夫が出来ます。	①折角の立派な設備も出来製造能力も高まりましたので、受注量を増やすため宣伝PRし、伏見台地区にも宣伝する。	各部会からの報告を受け、役員会でまとめたものを総会で決定する。	細河の地域特性を活かした事業を実施しており地域の活性化に寄与していると思われる。また、配食サービスについては、重要性が高くなるとの想定から安定した継続を期待する。	高齢介護課 保健福祉事業費	
グランドゴルフ場トイレ設置事業	617	補助金 617	高齢者等の健康といきがい増進を図るため実施する。利用者の要望を受けトイレ設置を行う。	久安寺敷地をグランドゴルフ場に開墾。今年度はトイレ設置設置と維持管理	久安寺敷地をグランドゴルフ場に開墾。今年度はトイレ設置設置と維持管理ができ、充実したグランドゴルフ場になりました。	高齢者の近場で運動レクリエーション参加を高めている。	細河地区は特に高齢化が激しい、福祉部の配食弁当事業と合わせ閉じこもり老人をなくし、今後はこども会と高齢者介護を合わせて企画して行きたい。			トイレを設置することにより利用者の利便性がたかまった。	生涯学習推進課 教育事業費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成24年度執行）

細河の自然を守る事業	680	補助金 680	ホタルの育成事業の実施、里山の竹や剪定枝の炭焼き活動及び剪定枝リサイクルの調査研究を行う。	里山環境管理事業、細河地区では音も大きなことだが、協議会予算ではどうにもならない。住民と会員に大切さの意識を植え付けるだけ。剪定枝リサイクル事業、協議会として勉強知識を高めるだけ。ホタル育成事業、今年も去年より多く飛びます。	ホタルの育成事業の実施、里山の竹や剪定枝の炭焼き活動及び剪定枝リサイクルの調査研究を行うことにより、観光資源を活用し、細河の活性化を少しでも図れた。	中途半端に協議会資金では難しい事を痛感した。国なり環境省が予算を組んで考えねばならない。牧歌的に協議会で出来る事とはこの程度です。	全体的に予算不足であるが炭製品などをどう工夫して販売し売り上げを伸ばし、運営していくかが、難しい。	ホタルの育成について継続的に取り組んでおり、効果が表れてきているようである。剪定枝利用など、細河地域の自然を活かした事業に幅広く取り組まれており、今後の展開に期待する。	環境をまもる課 環境衛生事業費	
街路灯強化事業	260	電気使用料 18 購置費 242	細河地区の防犯灯が設置されていない地域に植木植栽類にやさしいLED灯を設置する。	協議会発足当時はもったいないとか賛沢とかたかれたが、大震災と原発事故でLEDと太陽光熱が注目を浴びLEDが当たり前となった。	細河地域の街路灯の充実ができた。	住民は池田市の街灯がいかにか暗いかを改めて認識した。	製品の廃盤	街路灯の新設により、地域内の夜間交通の安全確保が図られている。	道路課 土木事業費	
細河コミュニティ道路整備事業	1,250	補助金 1,250	地域間の交流とコミュニティ意識の高揚を図るため、伏尾台コミュニティ推進協議会と協働で、地域間をつなぐコミュニティ道路、歩道等の整備事業を行う。	急こう配の山道であるが、児童の通学には短時間でかなりの生徒が登下校に使用している。伏尾台協議会との協働事業。	おおよそ半分完成し、伏尾台協議会に必要性が認識され、生徒が使いやすいコミュニティ道路が完成つつある。	下仕事は細河協議会会員の献身的なボランティアで地ならしを行い、舗装工事は専門業者に発注。予算の関係で今年度は半分の距離の舗装を完了した。引き続き来期もより良いコミュニティ道路建設に工夫したい。最近では生徒だけでなく、伏尾台の大人の方も久安寺の蕎麦屋(かやの木)へこの道路を利用する方もある。	半部分が完成して初めて伏尾台協議会に必要性が認識された感あり。秋には落ち葉が多く滑りやすく危険ゆえ落ち葉掃除が必要。生徒の登下校時間帯に見張りガードマンも必要性あり。	道路整備により、より安全で安心な散策道が確保されたと考える。	道路課 土木事業費	
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金 200	細河地域の活性化と、コミュニティ意識の高揚を図るため、地域団体が実施する住民運動会の運営事業を支援する。	今年で36回目の開催になりました。	運動会を通じて、各町の方々のまじわり・スポーツの良さを知っていただいた。	運動会を通じて、各町の方々のまじわり・スポーツの良さを知っていただいた。	27年度からの小、中一貫	スポーツ推進委員会が中心となり実行委員会を組織し開催する。多くの住民が参加し交流を深めた。	生涯学習推進課 教育事業費	
こども会育成事業	490	補助金 490	校区全体で子ども会の育成を行い、協議会と子ども会が協働して、子どもとのふれあいの場を維持していく。	協議会設立前から伏尾町であったが、児童の減少で細河全体の子ども会に事業を展開する。	細河全体の子ども会が一つになり、に事業を展開した。	地元の不死王閣さんの協力・地元の造園業者の畑地無償貸与と栽培指導。地元住民への協議会活動の周知度を高めた。	地域内の住民・業者のご理解とご支援のお陰で細河の子達は貴重な経験をさせてもらっている。こども達に自然の大切さ、してはいけない事を会得させ環境を守ってほしい。	地域住民・業者の協力のもと、芋ほりや夏のイベント、お別れスケートなどの楽しい行事を通して、自然とのふれ合いや地域の子とも土土のつながりが深まり、校区の子ども会活動の充実及び子ども会育成つながった。有効な事業として評価できる。	教育センター 教育事業費	
計		9,657	事業提案限度額9,657千円							

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成24年度執行）

秦野地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
	説明										
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
地域コミュニティ紙等発行事業	436	補助金 436	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	「秦野まちづくりだより」を各戸配布して、協議会活動のPRに努めてきた。地域分権をより定着させるために、活動・関心をさらに高める必要があった。	全体的に、地域の催しを中心に、写真を多くし、行事には、より広く分かりやすく、記事内容の充実を努めた。	写真、記事などの紹介で、より多くの人々の目を引くようになった。地域のイベントなど多数取材し、写真入りのコミュニティ誌を作り、また、各団体の取材等を載せ、地域に意識して頂いた。	まだまだ活動PRが足りない。地域住民とのコミュニケーションが必要である。協議会の広報活動もより一層充実させ、活用されるよう努めていく。			地域内の行事など地域に根ざした記事を掲載されている。写真も多く使用されビジュアル的にも工夫されている。	地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
共通課題等勉強会開催事業	100	補助金 100	地域内の共通課題等の勉強会を開催することにより、実情等情報の共有化を図り解決につなげる。	地域各団体など、町会・自治会に説明会を開き、資料・写真など配布し、延べ17団体にコミュニティの説明をする。	電話連絡もあり、もう少し詳しく聞きたいという団体もある。	コミュニティの事を、以前より理解してくれたと思う	地域の各団体と、一緒に秦野地域を住みよい、安心な街づくりをしていきたい。			今年度は、地域安全をテーマに勉強会を開催されたことで意識の向上につなげて欲しい。	地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
地域掲示板設置事業	437	修繕料 420 補助金 17	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民に知らせるため、掲示板を設置する。また、地域団体と共に使用出来るようにする。	地域全体の掲示板が老朽化してきた。地域・協議会の活動内容を知らせるのに、数多くの掲示板が必要になっていった。	2台新設する。地域によって場所的な問題が出てきている。町内会・自治会・社協など共に、協力して使用している。使用し易くなって大変喜ばれている。	地域と一緒に使って、使用しているのが少しだけ良くなってきている。来年度の申し込みも多くなった。老朽化によって、事故や怪我のないように改善が出来たと思う。	地域にとっては、古くなって来ている掲示板の支援も必要であると思う。コミュニケーションを図る事にも、役かっている。		掲示板を設置することにより地域内の広報活動に大きく寄与することを期待する。	地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費	
地域ギャラリー維持管理事業	263	電気使用料 11 補助金 252	コミュニティ事業の情報発信、地域住民の作品を掲載、地域行事等の広報を行うためギャラリー-掲示板を活用する。日常の維持管理経費を計上する。	地域全体としての共通に作品などの発表や情報の掲示場所が、不足していた。	2週間に1回の割合で、作品の入れ替えの為、多くの作品が必要となる。地域の催しも、写真などで紹介した。子供会等の掲示も多くなった。電話の問い合わせも多くなった。	毎年、新しい作品も増えている。通行人の方も見に来られる頻度が増えている。	2週間に1回の割合で、作品の入れ替えをしているが、作品集めはまだまだ必要。今後も根気欲、広報活動を続けていきたい。		作品数も増加しているようで地域になじんできているように感じる。今後も継続していただきたい。	地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費	
公園内水道設置事業	650	請負費 650	南畑公園に水道設備を設置する。								地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
地域内会館設備改修事業	3,395	修繕料 1,850 修繕料 1,545	地域内会館の利用者の利便性向上を目指し、7会館のトイレを高齢・障がい者が使用できる改修を行う。	地域内7会館において、高齢者・障害者用トイレを改修して欲しいとの要望がある。	各会館において、手すりも付き、使用しやすくなった。	福祉委員会などの各団体より、利便性が良くなったとの声が出ている。	宣伝不足の為、コミュニティが市と協同して設置したが、市民(地域)にもっと分かるようにしていきたい。		会館内のトイレが整備されたことにより、会館の利便性が向上した。	地域分権・協働課 総務課 コミュニティ推進事業費	
地域活性推進事業	950	補助金 950	地域の交流と地域活性化を図るためフリーマーケットを開催する。会場設置等の備品を購入する。	22・23年度フリーマーケットを開催し、多くの参加をいただき、備品も購入し貸出した。	参加者(個人・団体とも)は、昨年より多くなり、渋谷公園の場合は、トイレなどあり、多くの人が来られた。	申し込み団体・個人とも増えた。非常に好評であった。地域全体の交流の場が出来て、みんな大変喜んでいる。	PR不足もまだある。備品の貸し出し用に数多く揃える。次年度はもう少し広い場所が必要かもしれない。		地域住民の主体的な活動が活発になれば、地域コミュニティの形成にとって大きな後押しになると思われる。	観光・ふれあい課 地域活性化事業費	
地域イベント備品整備事業	250	補助金 250	地域の屋外イベント(自主防災訓練や盆踊り、レクリエーション大会等)の貸し出し用テントを購入する。	22年度からの備品貸出しを考え、24年度もより充実した備品をそろえて、地域の行事等に寄与する。	テントの大を購入するなど、地域と相談し、上渋谷・西畑・南畑・下渋谷・東畑など盆踊り・行事に貸し出した。校区盆踊りでは、テントなど多く貸し出した。	備品の貸し出しが増えた。各団体より、活用し易くなった。の意見が多かった。「まちづくりだより」を見て、連絡が多くなった。	地域では、行事が多くあり、まだまだ足りない備品もあり、地域と一緒に考えていきたい。分電盤など、古い備品も考えたい。		地域のイベントに寄与しており、更なる活用を期待する。	観光・ふれあい課 地域活性化事業費	
校区盆踊り大会事業	150	補助金 150	スポーツ振興会と子供会等の共同開催を支援する。コミュニティ意識の高揚を図る。	スポーツ振興会・子供会等で、開催している。	共同開催を支援し、参加数が増えてよかった。	盆踊り備品を揃え、スポーツ振興会・子供会への支援が充実したと思われる。	まだまだ、安全性を考えれば、古くなった危険性のあるものを、備品交換していく必要がある。		コミュニティの結束に貢献している。	観光・ふれあい課 地域活性化事業費	
AED配置事業	367	消耗品費 62 器具費 305	共同利用施設に設置し、突然の疾病や事故に対処する。住民には救命講習の受講を呼びかけ万に備える。	各会館に設置しているが、畑会館地域に設置していなかった。	畑3丁目～5丁目の畑会館に設置し、これで6会館に設置した。	北の地域に設置でき、まずは良い結果になった。	コストを考えていくと、パッド・バッテリーは市の方でお願いしたい。下渋谷地域に設置していないので、今後の課題である。		共同利用施設に配置することにより、多くの住民の安心感を得ることができたと考える。今後も、AED設置・管理要領に基づき、維持管理、救命講習の実施に努めていただきたい。	健康増進課 保健福祉事業費	
キッズランド支援事業	200	補助金 200	秦野小学校で開設された「秦っ子キッズランド」で使用する備品及び教材を購入し、充実したキッズランド活動を支援する。	遊び道具・ロッカーがふるくなくても、買え替えが出来ない。	安心して、楽しく伸び伸び遊んでいる。	怪我もなく、保管場所も確保できた。	秦小「秦っ子キッズランド」の支援継続。参加人数の増加も考えていきたい。		「秦っ子キッズランド」で使用するロッカー等の備品や遊び道具等を補充したことにより、活動の充実や参加者の増加、安全な運営につながっており、有効な事業として評価できる。	教育センター 教育事業費	

各部会からの報告を受け、役員会でまとめたものを総会で決定する。

ギャラリーやフリーマーケットの開催など地域色を活かした事業を実施されている。今後もPRやコミュニケーションの充実を期待する。

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成24年度執行）

自然学習講習会・昆虫育成事業	250	補助金 250	地域特有の自然と触れあい、自然の学習を学び、幼虫育成により親子のふれあいの場を提供する。	カブト虫・幼虫育成	カブト虫里親 カブト虫の成虫、一対配布。 幼虫を養育場に返還。	生き物に関心を持ち、命の大切さを勉強した。	カブト虫の継続は、大切であるが配布だけでは考える課題はある。「自然学習」としての、観察(山・川・池)が必要になって来ると思う。	継続して実施している事業であり、地域にも人気となっている。自然学習のみならず、地域住民との交流の場にもなっており、今後も継続して実施してもらいたい。	みずとみどりの課 土木事業費
秦野小学校設備改修事業	1,750	請負費 1,750	秦野小学校の外用トイレの一部を改修し、地域のイベント等でも使用できるように整備する。また、グラウンド側にソーラー時計を設置する。	地域イベント及び外用トイレ(洋式)が無い。 大人用にも使用出来たら良い。 運動場の時計が止まったままであった。	男子用1ヶ所、女子用2ヶ所の洋式トイレが出来た。手すりも良かった。 運動場には時計が中心となり、よく見えている。	地域イベント(運動会・盆踊り)学校行事において効果が出ている。	小学校において、トイレ・時計を設置したが、一部の人たちが知っているだけ、各先生も地域の活動を知っていただきたいと思う。	外用トイレ及び時計については児童だけでなく、地域住民もイベント等で利用するため、整備することで快適に過ごせることが期待できる。	管理部総務課 教育事業費
市民レクリエーション大会事業	280	行事報償金 280	地域のスポーツ振興会と子供会等の地域団体が開催する事業を支援する。					秦野スポーツ振興会が中心となり実行委員会を組織し開催する。多くの住民が参加し交流を深めた。	生涯学習推進課 教育事業費
計		9,578	事業提案限度額 9,578千円						

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成24年度執行）

北豊島地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
地域コミュニティ紙発行事業	630	補助金 630	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	地域コミュニティ推進協議会の活動状況又は内容について2ヵ月に一度コミュニティ紙を配布し、理解と協力を進めており、以前よりは理解されてきている。	24年度は6回発行、北小校区約7,100世帯に配布。 配布回数を重ねることに認知度は高くなって来ていると思います。	協議会がどのような事業をおこなっているのか。地域分権に対する理解 認知度上がって来ていると思います。	紙面制約はありますが出来るだけ読んでいただけるように記事内容に活動状況 防災・防犯活動状況 地域の情報等の充実とカラー化等で読んでいただけるように改善を加えて行きたい。			年6回の発行に感謝したい。今後も継続を期待する。	地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
地域掲示板設置事業	300	修繕料 300	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民に知らせるため、掲示板を設置する。また、地域団体と共に使用出来るようにする。	協議会の活動状況 講座 等を幅広く地域の方々(荘園地区)に告知できる掲示板がなかった。	地域の方々の要請もあり、(荘園1丁目堀齒科医院前)に設置。 (地域向け公的告知ポスター等利用可)	掲示板設置により協議会の活動内容PRと同時に地元の公的ポスター等掲示に利用され告知に役立っている。	期間済みポスター等の撤去 掲示状況管理を行っていく。			掲示板を設置することにより地域内の広報活動に大きく寄与することを期待する。	地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
防災活動事業	450	補助金 450	災害発生時の住民の安全避難対策の強化として、校区限定の防災マップを全戸配布する。また、拠点用の防災用テントを購入する。	全市の洪水ハザードマップ(避難施設等)は配布されているが地域(詳細な)での緊急時避難施設避難場所 AED設置施設等の防災マップがなかった。 防災時の協議会拠点テントが不備であった。	北小校区 全戸7,100戸に避難施設等記載した防災マップ(A4カラー印刷)を配布する。 防災時協議会拠点用テント一張購入。	マップを配布することによって非常時の安心感を与えた。	防災拠点用として必要な備品を揃えている。			地域を熟知する協議会によるハザードマップの作成により、今後万一災害が発生した時減災につながることを期待する。	危機管理課 安全防災事業費
きたてしまプラザ活用事業	3,668	修繕料 1,200 補助金 2,468	施設の運用と空調設備改修及び2階トイレのバリアフリー化改修他を行う。地域住民相互の交流の拠点として、また文化教室と子育て支援活動等の場を提供する。	コミュニティ推進協議会の活動拠点とし、各室で文化教室講座等を実施 週6日開館しております。しかし設備等が古く改修の必要性があった。 平成22 23年度事業(大 中 小会議室 1階和室)空調設備改修	週6日(年間292日)開館し、利用者年間12,348名 地域住民相互の交流の拠点 文化教室 地域の子育て広場(未就園児向けロケットキッズ)を委託支援 地域の老人会 子供会 地域福祉等団体等の会議開催利用。 協議会主催の教室(うたうプラザ 太極拳 木版画教室 囲碁クラブ等)児童向け図書室開設等により地域の住民の健康 福祉向上に寄与している。	全館で残るのは機械室の改修工が必要。きたてしまプラザは避難施設でもあり、耐震について調査が必要。 結果次第で耐震工事を考えたい。 運営委員会を中心に地域住民が参加出来る イベント 教室 絵画展 音楽会 等 活気あるプラザを企画運営していきたい。			1階クッキングルームの空調改修を行い、一年を通して快適に利用できる環境が整った。夏場のクールステーションとしての活用など地域のコミュニケーション施設として存在感を増していると思われる。	総務課 コミュニティ推進事業費	
地域行事活動促進事業	75	補助金 75	校区盆踊り大会と地域内行事に必要な備品等を購入する。	地域の住民どうし多くのコミュニケーションが図れる場として盆踊り秋祭りイベントがあり、各地とも少ない予算で運営されている。いろいろ開催の為に備品がそろえることが出来なかった。	事業執行によって少ないながら地域行事イベント備品を補助金で揃える事が出来た。	各行事とも多くの方々の参加によりコミュニケーションが図れた。	多くの方の参加があったとはいえ、地域から見た場合まだ参加者が少ないので参加者増員方法を考えていく。			地域のイベントに寄与しており、更なる交流を期待する。	観光・ふれあい課 地域活性化事業費
AED配置事業	376	器具費 376	豊島北地区の施設にAEDを配置する。住民に使用方法の講習会を実施する。	高齢者等の利用が多い、共同利用施設豊島北会館内に心臓疾患等に対応できる救命設備がなかった。	共同利用施設豊島北会館一階ロビーにAEDを設置。	心臓疾患での急患に対応が可能になったことで安心感が出来た。	心臓疾患等緊急時にAEDが正常に作動するよう日頃の点検が必要。 内臓電池 パット等の定期交換が必要(適宜予算化) 毎年 AED 使用再講習の受講。			健康増進課 保健福祉事業費	
子育て支援事業	310	補助金 310	毎週3回5時間 あそびの広場を開催し、紙芝居や絵本、TVシアター等親子のふれあい遊びと子育ての悩み等を関係者とともに語り合う。	継続事業ですが当地域には以前から未就園児に対して子育て施設がなく、公的支援のない中、子育て中の母親より子育ての仲間グループ設立の要請でロケットキッズが設立され、当協議会が事業として支援をする。	木田弘子氏中心にプラザ内の一室(ふれあいルーム)を開放し、テレビ等によるシアター劇場 童話の読み聞かせや市より支給のおもちゃ等を利用し、ロケットキッズが運営され、年間未就園児とその保護者4,078名の参加があり、子育ての悩みなど話し合え、好評を得ている。	母親たちにも好評で幼児を明るく元気に育て、自分自身の子育て悩みなど共通した話題が出来、参加者も増えつつある状況で事業効果は上がっていると思います。 個人相談室や3歳児中心の『びびよクラブ』等開設	木田氏を中心に事業活動を展開しているが内容から見て無償活動に限界があるように思います。 人件費は来年度 有償ボランティアを提案し、事業提案を行いたい。	各部会でまとめられたものを役員会で決定する。	子育て世帯にとっては交通の便が悪くなかなか遊びの場へ向くことが難しい地域なので親子にとって安全・安心な遊び場となっている。活動も親の力をうまく引き出して運営されている。	子育て支援課 保健福祉事業費	
サイクル&エコカーニバル運営事業	30	補助金 30	サイクル&エコカーニバルに必要な備品を購入し、行事の活性化を図る。	毎年市主催のサイクル&エコカーニバルが寛真高校の校庭で開催され、エコについての啓蒙活動が実施される中、協議会PRとして当初は有償で飲料サービスを行っていましたが他の参加企業等全て無償提供を行っております。	当協議会発行のコミュニティ紙を配布し、飲料(コーヒー)接待ですが補助金で無償化実施できた。	コミュニティ紙配布により協議会について一定のPRが出来た。	全ての参加企業も低額の有料サービスにして行くべきではないか。			本市の事業に積極的に協力いただいている。コーヒーも来場客から人気があり、イベントの運営に寄与している。	環境にやさしい課 環境衛生事業費
環境美化ウォーキング事業	100	補助金 100	継続的に地域の清掃活動を行うために必要な備品を購入し、子どもたちを含む地域住民が地域美化運動を展開する。	地域でゴミが目につくとの情報もあり、待機美化啓発運動として協議会活動として計画した。	6月24日に天神 荘園地区地域で清掃活動実施、約50名程度の参加者があり、(秋実施予定が降雨の為中止)地域美化運動の啓発に繋がった。	美化運動実施中ののぼり立て、ベストを着用しゴミ袋 約20袋を回収 住民に対して一定の啓発が出来た。	継続的に美化運動を実施することによって地域で美化運動定着化を図って行きたい。			住民自らの手で清掃活動を行うことにより、地域の美化意識向上に繋がっている。	環境にやさしい課 環境衛生事業費
豊島北2丁目公園花いっぱい整備事業	80	補助金 80	公園を憩いの場として、よりよい環境づくりの推進を図るため、園芸高校の生徒達の協力を得て、花壇の整備維持を行う。	継続事業で整備も完了し、明るい開放された公園。地域住民の憩いの場 子どもの遊びの場として多くの人々に利用されております。	花壇土壌の改良作業、植栽作業 年2回園芸高校先生、生徒さん達の指導による地域住民の花壇花植替え作業等維持管理。	花が咲き乱れ、住民の憩いの場 高齢者の散歩途中での休憩所 子供たちには明るく安全で楽しい公園として評価されている。	こども達利用する遊具に不備はないか日頃から点検が必要。 園芸高校の生徒さん達と地域の住民協働で今後も年2,3回花の入れ替え作業を行って行きたい。地域で管理する公園の前例となつていく。			地域で公園に花を植え、手入れをすることをきっかけとして公園に愛着をもってもらう。地域で管理する公園の前例となつていく。	みずとみどりの課 土木事業費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成24年度執行）

公園バスケットコート環境整備事業	294	補助金 294	青少年の健全育成を図る事業。定期的清掃作業用具の購入と時間外侵入者防止用門扉の開閉管理等を引き続き行う。	高架下の公園を整備、3on3バスケットコートを設置し、日々青少年がスポーツを通じ交友関係を構築している。時間外侵入者騒音の問題等あったが開場時間管理 防音シート設置等に対応している。	高架下公園で条件は良くないが人気のある利用度の高い公園で青少年のコミュニケーションが図れる場として役に立っている。	高架下でもあるが今後 青少年 親子連れ、高齢者等が憩う明るい公園に環境整備をしていきたい。			3on3コートが設置されている公園の施設管理を地域で実施しており、夜間の利用者対策に寄与している。	みずとみどりの課 土木事業費
市民レクリエーション大会事業	35	行事報償金 35	住民間のコミュニケーションを図る、校区レクリエーション大会に必要な備品の購入を行う。	市内全域で住民運動会が実施されていたが北小校区では地域行事との関係で子供会が中心とした運動会が実施されていた。(一方少子化が進み子供会中心の運動会が成り立たなくなる現状)その代替えとして軽スポーツ大会が実施されていた。	地域行事との問題もあり、9月22日に第1回住民運動会を北小校区で実施、約300名の参加があり、大いに盛り上がりました。	住民同士のコミュニケーションに大いに役立った。	市全体で住民運動会を実施されるのは意味のあることですが、地域特有の行事もあり、今後については市と相談しながら今後も継続実施をしていきたい。		「軽スポーツの集い」での予算で9月22日に住民運動会が開催された。市民レクとしては10月7日の「軽スポーツの集い」、H25年度に運動会形式の市民レクリエーション大会を開催予定。	生涯学習推進課 教育事業費
計	6,448		事業提案限度額 9,317千円	次年度繰越金額 2,869千円						

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成24年度執行）

これは地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
	説明										
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
地域コミュニティ紙等発行事業	300	補助金 300	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸配布する。	協議会の存在や活動内容について、地域全体に広報することで理解を深めている。	校区に居住する住民に、協議会の活動報告やアンケート調査の実施により、協議会の活動について理解を得たり、地域住民の考え方などを知ることができた。	校区に居住する住民に、協議会の活動内容を周知することにより、理解、協力と参加を促進することができた。	今後も益々内容の充実を図り、毎年実施している事業のお知らせや協議会への参加を促進していきたい。			アンケートの実施等広報紙作成に関して工夫を凝らしているところがある。今後も継続して実施していきたい。	地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
地域コミュニティ推進協議会拠点管理運営事業	1,026	庁用器具費 536 補助金 490	呉服会館の一室に、活動拠点を設ける。地域活動の活性化を図る。	共同利用施設呉服会館の1室を地域コミュニティ推進協議会の活動拠点とすべく備品の整備を進めている。	共同利用施設呉服会館の小会議室を拠点とした地域活動の活性化を図られた。	協議会における役員会や各部会の活動が活発に展開され、地域分権推進に大いに役立っている。	小会議室の再整備と備品購入で協議会活動の更なる活性化を図る。			拠点を中心に今後も活動を活発にされたい。	地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
地域内会館備品整備事業	1,000	庁用器具費 1,000	地域住民の利用度の高い施設(姫室・室町、呉服会館)の老朽化した会議用機の取替えを行う。	地域内の共同利用施設「姫室室町会館」の会議用機が老朽化しているため、利用者から買い換えの要望があったので購入した。	共同利用施設「姫室室町会館」の老朽化した会議用機を新規に買い換えることにより、利用者の賛辞の声を届いた。	以前の機は老朽化も激しかったが、重くて利用者であるお年寄りには負担であった。綺麗で軽量化された機は大いに歓迎されている。	他の共同利用施設の備品も買い換えを検討していきたい。		利便が改善された会館がより活用されることを期待する。	地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費	
地域掲示板設置事業	300	修繕料 300	老朽化した地域自治会の掲示板を取り替え、地域団体と共に使用出来るようにする。	地域内に呉服南自治会の掲示板の老朽化が激しいため、広報活動に支障があった。	老朽化した掲示板に変わり、新たに設置した掲示板は、ワイドで大きなポスターも充分張ることができ、住民からも賛辞の声があった。	ワイドで見やすい掲示板に付け替えたため、地域の広報活動が活発化した。	地域のお知らせや地域コミュニティ推進協議会の活動も、この掲示板を通じて地域住民に広く知らせることができる。今後も広報活動の充実を図る。		掲示板を設置することにより地域内の広報活動に大きく寄与することを期待する。	地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費	
青パト隊パトロール活動事業	1,151	修繕料 1,000 補助金 151	青パト隊による地域巡回活動を行い、各種犯罪の抑止効果を図る。安全な地域環境をつくる。青色防犯パトロール車の駐車場を新設する。	青パトでの呉服小学校区内巡回パトロール実施により、各種犯罪の抑止効果を図る。	青パト専用駐車場を呉服会館敷地内に設置することができ、隊員の自覚を高め、巡回回数や巡回範囲の拡充を図ることができた。	呉服小学校区内の細い道まで巡回範囲を広げることにより、各種犯罪の抑止効果に車両を活用できた。	より一層の巡回活動の充実を図る。		日々の地道な活動の成果により、小学校区区内でパトロールの認知が高まるなど、犯罪抑止に繋がっている。今後パトロール活動の充実を期待する。	危機管理課 安全防災事業費	
見守りパトロール隊強化事業	150	消耗品費 150	見守りパトロール隊に統一ベストを着用することにより、登下校時の児童の安全を確保する。	見守り隊が統一ベストを着用して児童の見守り活動を続けているが、ベストの支給が不足している。	全員に統一ベストを支給でき、子ども達も安心して登下校ができるようになった。	見守り隊の連携意識が高まり、登下校時の児童の安全が確保された。	見守り隊のメンバーチェンジが進めば、再度考慮する余地も必要かと考察する。		呉服小学校区の見守り隊の方々は、大変熱心に活動しており、その際、統一ベストを着用することは、子どもたちや保護者、地域住民の誰から見ても分かりやすく、登下校の安全を守る上で有効なグッズとなっており、評価できる。	教育センター 教育事業費	
これは地域フェスタ開催実施事業	1,500	補助金 1,500	これはフェスを各種団体と協働で開催する。地域の人と人の繋がりを深め地域コミュニティの活性化を図る。	これは地域内のコミュニケーションの充実を図ることを目的にフェスタを開催する。	地域内の各種団体の協力を得て、ステージをはじめ模擬店等を盛り上げていただき、地域内のコミュニケーションの充実を図ることができた。	共に協力し、目的を達成できたことよりも地域の方々とコミュニケーションを図ることができた事は大きな収穫である。	地域内のコミュニケーションを今後も積極的に図り、地域のつながりを広げていきたい。		地域の各種団体と協力して開催していく姿勢は評価したい。今後も地域のつながりを広げていけるよう期待する。	観光・ふれあい課 地域活性化事業費	
MTPフェスティバル支援事業	350	補助金 350	池田地域コミュニティ推進協議会と協働で、MTPフェスティバルの支援を行う。	池田地域コミュニティ推進協議会と共に、MTPフェスティバルの支援を行う。	小学校区から中学校区へと範囲が広がり、また、他の地域コミュニティとの交流も活発にできた。	MTPフェスティバルに当協議会が参画することでコミュニケーションの向上が図れた。	他地域の行事への報奨金も検討しながら、フェスティバルが活発化するよう努める。		青パトの活動については、充実してきたようで、今後もより一層の充実が期待される。また、これはフェスタの開催やストップマークの設置など今後も地域力を活かした事業を実施されたい。	観光・ふれあい課 地域活性化事業費	
散水栓施設事業	535	請負費 535	憩いの場としての花壇を囲み花を育てる。地域住民のコミュニティの増進を図る。	満寿美町と宇保町の境にある花壇に水を捨くため、隣接の店からもらい水をしていった。	花壇専用の散水栓を敷設することにより、隣接のお店に迷惑をかけることもなくなった。	気兼ねなく花壇の世話ができるようになり、花を愛でる愛好家たちも集い、地域のコミュニケーションも図れるようになった。	出入口を整備することで、もっと地域の人達が集いあえる環境にしていきたい。		散水栓の設置により、花壇の手入れがしやすくなった。今後も地域交流の場として活用してほしい。	環境をまもる課 環境衛生事業費	
歩行者用ストップマーク設置事業	600	修繕料 480 補助金 120	児童が登下校の際に利用する通学路にストップマークを設置する。歩行者の交通安全意識を啓発する。	児童の登下校時に利用する通学路に、交通事情の激しい危険な箇所があり、交通事故が発生しないかと気になっていた。	交通事情の激しい危険な箇所にストップマークを設置したことにより、交通事故から子ども達を守ることができた。	ストップマークを設置したことにより、子ども達もその場で一旦立ち止まる事により、交通事故を回避できる。	地域内には、まだまだ危険な箇所があるので、順次設置に向けて対応したい。		マークの設置により、危険箇所であるという注意喚起及び安全確認の習慣づけに寄与した。	交通・総務課 土木事業費	
呉服小学校花いっぱい運動支援	100	補助金 100	地域と学校と一緒に実施する「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動の支援を行う。	昨年度より引き続き実施している事業で、地域と学校と一緒に花を育てる活動を支援する。	「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動を支援する。	呉服小学校と地域と一緒に花を育てるプロジェクトに参加し、子ども達が花を育てる喜びを感じ、感性豊かな心を育む事ができた。	感性豊かな子ども達を育てていく事業にも、今後も積極的に対応していきたい。		緑化への関心を高めるだけでなく、子どもと地域住民が交流するきっかけの場ともなっており、地域活性化に寄与しているといえる。	環境をまもる課 環境衛生事業費	

各事業責任者の意見を聴き、協議会で決定する。

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成24年度執行）

街路灯強化事業	100	電気使用料 2 請負費 98	夜間の事故や犯罪を未然に防ぐため、既存の街路灯3台の照度強化を行う。	前年までの4年間引き続き実施してきた事業であり、住民要望をはじめ協議会での検討も含め、未実施箇所への設置を予定。	関係部局と協力しながら、住民要望に合わせた事業を展開した。	住民が住みやすい環境づくりに寄与できた。	今後とも、住民からの要望を聞き、安心して住める街づくりを推進していく。	街路灯の強化により、地域内の夜間交通の安全確保が図られている。	道路課 土木事業費
カーブミラー設置事業	100	請負費 100	交通事故防止のため、見通しの悪い交差点に設置し、交通安全を確保する。	児童の登下校時に利用する通学路に、見通しの悪い交差点があり、交通事故が発生しないかと気になっていた。	見通しの悪い交差点にカーブミラーを設置したことにより、交通事故から子ども達を守る事ができる。	カーブミラーの設置により、子ども達がその場の状況を判断できるようになり、交通事故を回避できるようになった。	地域内には、まだまだ危ない箇所があるので、順次設置に向けて対応したい。	交差点内の交通安全性の向上に一定の効果があつたと考えている。	道路課 土木事業費
呉小吹奏楽クラブ支援事業	750	器具費 750	呉小吹奏楽クラブの楽器購入を支援する。団体の活動支援を行う。	呉服小学校の吹奏楽クラブの楽器が老朽化していて、正確な音程を出せない状態である。	老朽化した楽器を新規購入することで、古い楽器を新しく入ってくる児童の練習用に活用している。	新しい楽器演奏で技術の向上に役立つと共に、練習用の楽器ができたことで更なるレベルアップが図れる。	老朽化した楽器を年次計画(3~5年)によって新規購入を図る。	新しい楽器を購入することで、部員に1台ずつ楽器を割り当てる事が可能になり、演奏技術の向上が見込める。	管理部総務課 教育事業費
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金 200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。コミュニティ意識の向上に努める。	地域のスポーツ振興会が開催している市民レクリエーション大会に、池田市が報償費として支出していた。	池田市に代わり、当協議会が行事報償金として支出する。	市民レクリエーション大会に当協議会が参画することでコミュニケーションの向上が図れる。	他地域の行事報償報奨金とも検討し、校区の市民レクリエーション大会が活性化できるよう努める。	スポーツ推進委員が中心となり実行委員会を組織し開催する。多くの住民が参加し交流を深めた。	生涯学習推進課 教育事業費
演奏会等文化事業	800	補助金 800	音楽に親しむことや名画を鑑賞することで、地域の文化を高めるとともにコミュニケーションを図る。	校区内での文化事業は、昨年は池田駅前での「クレハフェスタ」を実施したが、今年度は趣を変え呉服小学校で吹奏楽をはじめ音楽を中心に実施した。	呉服小学校の吹奏楽やプロ歌手による音楽祭を開催することにより、校区に一体感が生まれた。	開催内容(呉小吹奏楽の演奏等)の検討や準備を校区の住民と協力しながら行うことにより、人間関係も構築され連帯感が生まれた。	地域の小学校とのコラボレーションや地域との交流により、地域にとけ込んだイベントとしてより一層の連帯感を生み出した。	地元の団体(呉小吹奏楽部)・施設(猪名川グラウンド・くれは音楽堂)を活用することで地元の連帯感を生み出す効果があつたと評価	生涯学習推進課 教育事業費
計		9,062	事業提案限度額 9,062千円						

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成24年度執行）

石橋地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
	説明										
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100									地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
地域コミュニティ紙等発行事業	510	補助金 510	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸配布する。	認知度が低く、3回発行の市広報に折り込みするもあまり見る人が少なかった。	発行を重ねるごとに、見ましたとの声を聞くようになった。	コミュニティ紙の記事に関する要望の依頼の問い合わせがあったり、内容の確認の電話をもらうなどずいぶんと定着してきました。	年間の行事予定など、長期保存の記事に工夫していきたい。			今後も紙面に工夫を重ねるなどの発展を期待します。	地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
地域住民御意見箱設置事業	400	修繕料 400	地域住民の声を集約し、活動に反映するため、ポストを5ヶ所設置する。	地域コミュニティ活動の地域への認知度は、現在でも5人に1人が関心ある程度で、中々広がりを見ていないのが実情である。又、活動も一部の人に限られ手詰まり感も感じられる。	ご意見箱を校区内の5か所の掲示板に設置することにより、地域住民の皆さんの考えを吸い上げ、今後のコミュニティ活動に取り入れたい。ご意見に対しては、校区内24か所の掲示板に回答、掲示する予定である。しかし、ポストへの悪戯には注意が必要である。	今後の推移を見守りたい。			設置された意見箱によりより多くの地域の意見が集約できることを期待します。	地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費	
地域掲示板設置事業	420	修繕料 420	地域コミュニティ推進協議会の活動状況等を地域住民にPRするため、掲示板を2ヶ所設置する。重点箇所から年次計画で整備する。	人の往来が多い場所でありながら、地域情報発信力が低い。	情報発信力が充実した。	地域住民への情報広報活動が充実した。	情報広報活動の更なる充実を図る。			掲示板を設置することにより地域内の広報活動に大きく寄与することを期待する。	地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
地域防災体制強化等事業	2,036	器具費 2,036	活動を開始する、自主防災組織の体制強化を図るため、防災用備品などを納める倉庫を校区内(4ヶ所)に設置する。	平成24年度に、¥2,000,000の補助金で①石橋北会館、②井口堂北会館、③旭丘会館、④石橋公園の4か所に防災倉庫を設置して、防災備品を順次取り揃えた。	地域コミュニティの安全部会として2,036,000万円の予算を計上して、それが認められ、上記の4か所の防災倉庫に防災、減災、自助、共助を目的として防災用品を購入して納入を終えた。昨年、今年と取り揃えたことによってより充実した備品の拡充を図った。	防災倉庫設置場所の管理責任者、および安全部会員を始めとして地域住民にも防災、減災、自助、共助への意識付けを図ることが出来得ると思われる。又、第3回を迎える防災訓練にも有効活用出来ると考えられる。	宝の持ち腐れにならないよう実際に防災訓練を始めとして始動、使用、活用のスムーズな円滑化。		地域内の防災備品を適切に配備・管理することができ、万が一の際に適切な利用されることを期待する。	危機管理課 安全防災事業費	
ハザードマップ作成事業	240	補助金 240	池田市洪水ハザードマップ及び防災の手引を基にした地域の詳細なB4版カラーマップを作成・配布し防災減災意識を高める。	地域住民の皆さんに防災倉庫、AEDの設置場所、災害時の避難場所、井戸のあるお家、地域内の危険な場所等を防災マップに掲載し全戸配布することにより災害時にスムーズな避難、避難所運営を図ることを目的に作成。	2月の池田市広報紙に折り込み、石橋小学校区全住民に4800枚配布完了。又、校区内に24か所の掲示板にも掲載している。	保存版であるので、各戸の目の行き届くところに貼っておいてほしい。			地域を熟知する協議会によるハザードマップの作成により、今後万が一災害が発生した時減災につながることを期待する。	危機管理課 安全防災事業費	
つどいふれあいまつり推進事業	550	器具費 300 補助金 250	地域住民のつながりと地域活性化を図るためイベントを開催する開催案内チラシ作成と備品及び保管庫を購入する。	多くの地域住民に参加を呼びかけコミュニケーションづくりを行うべく準備実行	地域の方々約300名の参加を得て、又スタッフ前日、当日合わせて約120名の協力を得楽しく無事けがもなく終了	地域住民のつながりと地域活性化を楽しく図ることが出来た。	地域住民のつながりと地域活性化の為にイベントを再考		地域のつながりや地域活性化に寄与しているといえる。	観光・ふれあい課 地域活性化事業費	
地域行事等活動促進事業	300	補助金 300	納涼大会等を実施する地域団体に電気設備設置及び活動運営を支援して、コミュニティ活動の充実を図る。	納涼大会を存続の為に必要な経費への地域のご支援ご協力の限界がみえ、きびしい状況にあった。	補助金の充当で従来と同じく納涼大会の開催が可能となり存続できた。	出店も含み全て地域住民の手で行っている夏の大きな行事に、他地域からも多くの参加を得て、例年同様盛大に楽しむ事が出来た。	ますますきびしくなる経済時勢の中納涼大会の趣旨にご理解ご協力をいただきたい。		地域交流の促進に貢献している。今後のコミュニティの更なる発展を期待する。	観光・ふれあい課 地域活性化事業費	
地域イベント備品等整備事業	150	補助金 150	校区住民が参加する地域イベント等で使用する備品を購入する。	備品の消耗、破損、老朽化。	全て必要な部分は更改された。	これらの更改によりコミュニティ活動の充実が図れた。	他の備品の整備及び老朽化等の更改も必要に応じて行いたい。		ある程度の備品整備は整ったようなので、今後必要に応じての整備を検討してもらいたい。	観光・ふれあい課 地域活性化事業費	
地域美化整備事業	54	補助金 54	美しい街を目指すため、啓発用看板等を設置し地域住民のモラルの向上を図る。	美しい街づくりをしようと言う呼びかけも弱く、道路にはベットの糞やタバコの吸殻が散見されたり、雑草が茂ったまま放置されたりと町の美化が損なわれている。ミニ公園の遊具の塗装がはげ、見苦しくなっている。	地域の要所要所に「ベットのふんの放置禁止」「タバコのポイ捨て禁止」等の啓発ポスター100枚を掲示し、地域住民に美しい街づくりへの協力を呼びかけた。井口堂北会館公園のジャングルジムの全面塗装を行った。	啓発ポスターが到る所で目につくので、心ある住民には美しい街づくりへの前向きの行動が期待される。(タバコの吸殻の放置は減少していないが、ペット糞の放置はほとんど無くなって来ている。)井口堂北会館公園のジャングルジムは新品同様となり利用する子ども達に喜ばれている。	美しい街づくりには住民一人ひとりの意識の問題があり、更に啓発活動を強化、ステップアップさせていく必要がある。環境総点検を実施した結果「タバコのポイ捨て」「道路脇の雑草」が町の美化を損ねている二大要因であるので、来期はこの二項目に絞って実施していきたい。		まちの美化活動に積極的に取り組まれている。住民自身の手で啓発活動を行うことで、住民全体の環境意識向上に繋がっている。	環境にやさしい課 環境衛生事業費	
箕面川美化整備事業	57	補助金 57	箕面川及びその流域の美しい環境を守り育て地域住民の憩いの場として整備する。	むくの木ガーデンは手作りのための設備も不十分で、会員以外の地域住民の憩いの場として利用されていない。大型の工具が無く、箕面川の清掃、草刈り作業に手間取っている。	むくの木ガーデンの入り口にパラアーチ、中央にテーブル・イスセットを配置し、ガーデンらしい装い設備となった。ピッケや草刈り大バサミ等の大型工具を配備した。	設備が充実したため、殺風景だったむくの木ガーデンの質的向上がはかられ、地域住民の憩いの場として活用されつつある。又工具類の配備により、箕面川の清掃、草刈り作業が効率よく出来るようになった。	むくの木ガーデンは、地域住民にまだまだ十分認知されているとは言えないので来期はむくの木ガーデン内で地域住民を対象にした行事(ガーデン教室)を企画し、むくの木ガーデンの認知向上をはかりたい。	各部会でまとめられたものを、役員会で決定する。	雨天のためむくの木ガーデンでガーデン教室を開催することはできなかったが、今後もむくの木ガーデンを拠点とした箕面川の清掃活動に期待している。	環境をまもる課 環境衛生事業費	
リサイクル活動事業	80	補助金 80	ペットボトルキャップの回収リサイクルを行う。資源の有効利用を図ると同時に住民の意識を高める。	ペットボトルキャップの回収リサイクル及び資源の有効利用への住民意識を高める事を昨年同様につづける。	2年目に入り住民の意識も高まり、回収量も増加している。	ゴミとして捨てられていたキャップが資源再利用として生活用品として戻ってくる事が更に住民の意識を高めていると思う。	広報活動の充実 回収量の増加にともない能率の良い回収方法の再考		回収も2年目に入り、地域の広い範囲に回収箱が設置されてきた。回収量も増加してきており、地域に定着してきている。	環境にやさしい課 環境衛生事業費	

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成24年度執行）

AED配置事業	433	消耗品費 70 器具費 363	地域行事等の傷病発生時に早期の救命措置を行うため、共同利用施設(1台)に配置する。住民に使用方法の講習会を実施する。	平成22年度に井口堂北会館、23年度に石橋北会館にAEDを設置した。	校区内にある3つの共同利用施設のうち、未設置であった旭丘会館に平成24年5月2日に設置した。これらのAEDを実際に使用するようなことは起こってほしくないが校区内の3会館には設置を終えたので今後は、いざというときに素早く、的確に有効利用でき得る事ができるか。	共同利用施設の管理人さんをはじめとした消防署の指導による、AED講習の定期的な開催、受講。	共同利用施設に配置することにより、多くの住民の安心感を得ることができたと考える。今後も、AED設置・管理要領に基づき、維持管理、救命講習の実施に努めていただきたい。	健康増進課 保健福祉事業費
子どもの安全に対する事業	1,150	請負費 1,150	交通量が多く道幅が狭い通学路の安全対策として路面に線引及び通学路表示を明示する。	道幅の狭い道路で自動車、自転車、単車の交通量が多い中、石橋小学校の児童が集団登校やグループ下校時の通学路としており児童達は勿論、地域住民も日常生活の買い物などで出掛ける折に危険を感じている。歩行者の安全と車両運転者への注意を促す為、白線を引く。	安全と注意を目的に片側に「白線を引き」、道路上に「通学路」と明示した。歩行者は白線内を歩き、自動車等は、スピードを落とし徐行や注意力が増してきた。	「白線の中を歩くと安全、安心」との声が聞こえている。地域の人達も登下校時の児童達に白線内を歩くようにと声掛けがし易くなった。他所から来られたての歩行される人からは、「子どもたちに暖かい地域ですね」と褒めていただいた。	通学路と指定されている時間の自動車、単車通行禁止標識を依り目立つ工夫や生活住民への注意喚起が必要と考えている。	道路課 土木事業費
街路灯強化事業	200	電気使用料 4 請負費 196	最近ひったくり等の犯罪が多発しており、安心安全の向上のため、街路灯(6台)の整備増強を図る。	昨今は、街路灯の整備が進み、夜間も比較的安心して通行できるようにはなっている。しかし、長年の使用によって、照度不足や器具の破損、消えてしまっている街路灯もある。昨年度は旭丘地域を重点的に点検した。	以前よりも安心、安全が増した。	順次LED化	街路灯の新設により、地域内の夜間交通の安全確保が図られている。	道路課 土木事業費
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金 200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の向上とコミュニティ活動の充実を努める。	市民レクリエーション大会運営状況の厳しさ増加。	運営補助金として活用し、コミュニティ活動改善。	これよりコミュニティ活動の充実が図れた。	地域支援協力(広告代収入)が年々厳しさを増す中運営内容等についても再考していった。	生涯学習推進課 教育事業費
市民レクリエーション大会備品等整備事業	130	補助金 130	地域のスポーツ振興会等が開催するための備品等の更改を図る。	備品の消耗、破損、老朽化。	全て必要な部分は更改された。(現在)	これらの更改によりコミュニティ活動の充実が図れた。	他の備品の整備及び老朽化等の更改も必要に応じて行いたい。	生涯学習推進課 教育事業費
教育問題等講演会開催事業	50	補助金 50	石橋地区の成り立ち・歴史および身近な事柄等の知識を得るための講演会を開催し地域の魅力アップにつなげる。	地域に遺跡、古道があることは知っているが詳しいことは知らない状況であった。	講演を聞き、歴史ある貴重な場所だと認識した。	由緒ある道路、遺跡を住民の人々が理解し、後世に伝えていかなければならないと感じた。	他地区からも見学者が多く訪れているので遺跡の整備や景観の維持、明示等住民が守っていきべきだと痛感した。	生涯学習推進課 教育事業費
計	7,060		事業提案限度額 8,818千円	次年度繰越金額 1,758千円				

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成24年度執行）

五月丘地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
	説明										
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
地域コミュニティ紙等発行事業	445	補助金 445	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	カラー化したコミュニティ紙を年2回発行し、地域全戸に配布業者を通じて配布している。	継続事業で前年度と変わらず。	コミュニティ紙の紙面に会員募集欄を設けているがあまり効果はない。	例えば、コミュニティカフェで行っているイベントの紹介など関心を持ってもらえそうな内容を考えて読んでもらうことが先決である。			今後も継続して発行し、より一層の広報活動に活用されたい。	地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
地域コミュニティ推進協議会拠点運営事業	77	補助金 77	都市機構の北集会所一部を借り上げ、協議会の拠点施設とする。	定例会は五月丘会館で開催、協議会用備品は会館などで一時保管。	6月からアルビス五月が丘の北集会所の受付事務所を拠点事務所として賃借し、折畳みテーブル、椅子など備品を取り揃えた。	同時に展開したコミュニティサロンの拠点にもなり、利便性は大きである。	サロン用備品の収納場所にもなっており、少人数の打合わせにしか利用せず手狭である。			拠点を中心とした協議会活動の広がりを期待します。	地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
コミュニティサロン設置事業	219	補助金 219	地域の人人に情報交換や落語会等イベントの活動場所としてコミュニティサロンを開設する。関係団体の活動支援を行う。	6月から第2、第4日曜日にUR北集会所を借りてカフェを開催し、うち1回は地域住民が喜びそうなイベントを開催している。	地域住民のリピーターが少ない。子供用に絵本を置いたりして親子連れを期待しているが、今一つである。	イベント開催時は来場者が多くなるが、目的の一つであるコミュニティ推進協議会のPRということでは反応が悪い。	第2、第4日曜日という月2回の開催は利用者にとって分かりづらい。毎週開催がベターだが、人的な制約があつてつらいところである。			情報交換を通じて、地域活動が一層活発になることを期待します。	地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
地域掲示板設置事業	400	修繕料 400	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民に知らせるため、掲示板を2ヶ所設置する。	五月丘地域で9箇所の掲示板があり、コミュニティカフェのお知らせ、コミュニティ紙、福祉協議会関係のお知らせなどを掲示している。	9箇所に加えて歯抜けになっていた1丁目UR職員宿舎北西角と図書館南階段下の2箇所に新設し、全域カバー出来た。	継続事業として2、3か所ずつ設置してきたが、今回で全域カバーしたことになり、一応完了とする。	社会福祉協議会の掲示板と併せて有効活用ができればと考える。			掲示板を設置することにより地域内の広報活動に大きく寄与することを期待する。	地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
防犯カメラ設置事業	500	電気使用料 3 請負費 497	安全で安心な暮らしの実現に向け、さらなる街頭犯罪件数の減少を図るため、防犯カメラを設置する。	五月丘地域には防犯カメラが一台もなく、犯罪や交通事故の捜査・検証や犯罪抑止の観点からもせつちが望まれる。	五月丘交差点南西角に設置した。設置に先立ちカメラに映る対象のお宅に設置の承諾をお願いしたが、みなさん一応に歓迎の意向であった。	設置したカメラの支柱に防犯カメラ作動中という看板がつけてあるので、犯罪の抑止効果があるのでは・・・。	カメラの設置場所は、ほぼ公共の敷地に限られるので、増設していくが場所的な制限がある。			地域の危険箇所に防犯カメラを設置することにより、犯罪の発生を未然に防ぐ効果を期待する。	危機管理課 安全防災事業費
緊急通報装置管理事業	1	電気使用料 1	緊急通報装置の電気代を賄う。	通報装置の機能維持のための電気料金	同上	犯罪の抑止効果				緊急通報装置の運用が、今後犯罪の抑止効果に繋がることを期待する。	危機管理課 安全防災事業費
ハザードマップ作成事業	250	補助金 250	五月丘地域のハザードマップを作成し、住民の危機管理意識を高め、校区の安全対策に努める。	池田市が全戸に配っている防災マップにより、五月丘地域では土砂災害に対しての心の準備をしている。	五月丘地域だけの土砂災害以外の交通危険箇所、ポスト設置場所、避難場所など住民の利便性を考慮したマップを作成した。	家の中に掲示しやすいA3サイズで作成しているが、効果は把握していない。	池田市の防災マップと併用して、役立てて欲しいと願っているが、仕舞い込まれる心配がある。			地域を熟知する協議会によるハザードマップの作成により、今後万一が災害が発生した時減災につながることを期待する。	危機管理課 安全防災事業費
地域防災訓練強化事業	50	補助金 50	防災意識向上のため、ポスターの製作と地域をはじめ隣接地域と合同で防災訓練や勉強会を実施する。	地域住民の防災意識向上のために地域内3自主防災組織が合同で総合防災訓練を行う。	毎年の継続事業	参加人数は増加傾向にある。	池田市が実施しつつある避難所訓練を3防災組織の合同訓練に取り入れることが必要である。			校区内の自主防災組織が合同で防災訓練を実施することにより、地域の連帯が生まれ、今後万一が災害が発生した時減災につながることを期待する。	危機管理課 安全防災事業費
電動自転車安全パトロール事業	792	修繕料 542 器具費 205 補助金 45	坂道の多い五月丘地域内で、地域住民の協力を得て、安全パトロールを実施し、犯罪の抑制を図る。電動自転車(2台)と保管用上屋を整備する。	電動自転車2台は小学校が保管場所となっているが、本校舎南壁面に雨を避けるように保管している。	1台増設することになり、本格的な自転車置き場を本校舎北側に設置した。	自転車置き場を新設することにより、管理面は充実したが、学校が保管場所である関係もあって、子どもの安全に気を配りながらの先生の利用が多い。	無職の会員の高齢化が進み、電動自転車による定期的なパトロールが難しくなっている。			今後ともパトロール活動の強化に努めていただきたい。	危機管理課 安全防災事業費
イベント運営事業	150	補助金 150	地域交流や地域活性化などに重点を置き、地域住民参加型のイベントを行う。ポスター作成と設営備品を備える。	カプトムシ飼育講習会以外にコミュニティとしての企画はなく、イベント用の備品のない。	先々のイベント開催に備えて、とりあえずテントを一張購入した。また、最近途絶えていたスポーツ振興会主催のグランドゴルフの支援をした。	購入したテントは、カプトムシ里親講習会や図書館祭りにコミュニティカフェを出張オープンしたときなど大いに役立った。	これから企画使用としている大きなイベントにはテントを含めイベント備品を取り揃える必要がある。			今後必要に応じての備品整備を検討し、更なる地域活性の一助となるよう期待する。	観光・ふれあい課 地域活性化事業費
盆踊り大会支援事業	96	補助金 96	地域団体が実施する、盆踊り大会の運営にかかる経費の一部(会場運営用電気設備他)を支援する。	地域にとって数少ない恒例のイベントであり、参加者も年々増加傾向にある。	昨年に引き続き照明設備などの更新を行っており、雰囲気的には、以前より明るい環境の盆踊りとなった。	年々設備がわずかながらも更新されて、そのせいもあって参加者が増えている。	自前で太鼓を持ち、子どもが太鼓を叩けるようになれば、他地域に負けぬ盆踊りになる。会場である学校の電源容量から照明のLED化が必要			地域のつながりや地域活性に寄与しているといえる。	観光・ふれあい課 地域活性化事業費
「ポイ捨て禁止」看板設置事業	100	修繕料 100	道路、公園及び河川沿い等に啓発看板を設置する。	市役所の各所管が各々作成し、設置されていたが、本格的なものは無く、汚れたり、風化したものが大半で効果は疑問である。	長期間耐えうる素材を使って、市の罰則文言も明示したものを作成し、学校や河川の欄、公園に設置した。	今までより目に付きやすい作りになっており、それなりの効果はあると考える。	特になし。場合によっては、再度作成することもある。			まちの美化活動に積極的に取り組まれている。住民自身の手で啓発活動を行うことで、住民全体の環境意識向上に繋がっている。	環境にやさしい課 環境衛生事業

各部会からの報告を受け、役員会でまとめられたものを総会で決定する。

コミュニティサロンを開催し、活動のPR等に努めるとともに、実施した事業の評価と見直しが適切に行われていると感じる。

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成24年度執行）

まちなみ花いっぱい整備事業	50	補助金	50	小・中学校関係者とともに協働で地域の人々が花を育て、花を通じて人々の心を豊かにする。	小学校3年生が春には花壇へ花苗を移植し、秋には花芽を育て、育った花苗を花壇に移植したり、保育所、幼稚園などの団体に贈呈する。	3年生の授業の一環になっている継続事業。	育てた花の命を大切にするという気持ちを子どもたちに植え付ける。PTAも参加し、地域コミュニティのPRにもなっている。	毎年やっていることは同じでマンネリ化しているが、3年生のカリキュラムのひとつなので仕方がないか。		学校で花を植え育てることによって、地域住民が緑化に関心を持つきっかけとなる。また、生徒と地域住民の交流の場ともなる。	環境をまもる環境衛生事業費
AED管理事業	67	消耗品費	67	使用期限が切れるパッド（3台分）の交換等を行う。	五月丘会館、ビューグランド池田五月丘、セブン・イレブンのAEDを設置している。	設置3箇所のパッドの使用期限がきた為に業者による取り替え作業を行った。	いつでも使える状態にすることが肝心である。	いざという時にうまく使えるか不安な面がある。		引き続き、AED設置・管理要領に基づき、維持管理、救命講習の実施に努めていただきたい。	健康増進課 保健福祉事業費
交通安全注意喚起事業	54	補助金	54	通行が多い五月丘小学校付近に、安全確認標識を設置し、ドライバーの安全意識の向上を図る。	五月丘小学校区の6か所で下校時の児童の安全を確保するためにPTAがポイント立ちを行っていたが、交代制で行うため見守りポイントがわからない人が続出し、混乱を招いていた。	6か所の見守りポイントに看板を設置し、見守りポイントが明確になることにより、混乱なくポイント立ちができるようになった。	見守り活動を行っている旨の看板設置により、見守りポイントが誰にでもわかるようになったと同時に犯罪抑止の効果が期待できる。	特になし		見守りポイントの共有により円滑な交通安全活動が実施がなされ、ドライバー、歩行者の双方に安全啓発を行うことができた。	交通・総務課 土木事業費
昆虫育成等講習会実施事業	818	修繕料 補助金	600 218	五月山をカブトムシ等昆虫が生息できる環境整備を行う。昆虫を育成するための親子ふれあい講座を開催及び昆虫育成場の散策コース案内板を設置する。	前年度に設置した6箇所カブトムシ産卵場の腐葉土の入れ替え、補充作業を行うとともに塩塚公園に1箇所産卵場を増設した。	産卵効果の見込める4箇所について腐葉土の入れ替え、補充を行った。コミュニティサロンのイベントとしてカブトムシ里親講習会を行った。	カブトムシ里親講習会はカブトムシ配布が久しぶりということもあって親子での参加者が多数あった。	産卵場の腐葉土の入れ替え、補充はその効果が目に見えないため、今後再考の必要がある。		カブトムシ産卵場の整備費が当初予定より費用がかからなかったため、戻入が多かった。今後は、適切な予算提案をしなければならない。	みずとみどりの課 土木事業費
公園整備事業	1,500	請負費	1,500	地域のふれあい拠点となる茶臼山公園に健康遊具の設置と山の手公園に時計設置を行い、個々の特色を活かした整備を行う。	地域のふれあいの場である茶臼山公園と山の手公園に時計を、又茶臼山公園には健康遊具を設置する。	地域内の4公園すべてに時計が設置され、また山の手公園を除く3公園には健康遊具が完備された。	地域内のすべての公園に時計が設置され、子どもが親との約束の時間までに帰宅できる環境ができた。	健康遊具が有効に使用されるPRが必要。		健康遊具の設置により、高齢者をはじめとした利用者の増加が期待され、また時計の設置により子ども達の帰宅時間等が容易に確認できるようになった。	みずとみどりの課 土木事業費
街路灯強化事業	351	電気使用料 請負費	3 348	夜間の事故や犯罪を未然に防ぐため、街路灯の照度強化を行う。	五月丘5丁目山の家西側斜面下の道路は人通りが少なく、街路灯の間隔も広かったので夜間は不安に思いながら通行していた。	街路灯と街路灯の間の一番暗い箇所に設置した。	通る人は少ないが、道路が明るくなり、感謝されている。	街路灯の整備も一段落で、これをもって完了とする。		街路灯の新設により、地域内の夜間交通の安全確保が図られている。	道路課 土木事業費
市民レクリエーション大会事業	168	行事報償金	168	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。地域コミュニティ意識の高揚に努める。	スポーツ振興会が教育委員会の行事報償金で市民運動会を主催しているが、地域コミュニティが予算枠を計上して支援している。	大会がより盛り上がるよう地域コミュニティの予算枠を前年より大きくして支援した。継続事業であり、運営実態は変わらない。	参加人数は年々増えている。地域にとっては数少ないイベントの一つ、地域住民の触れ合いの場として積極的に協力していく。	特になし。		五月丘スポーツ振興会が中心となり実行委員会を組織し開催する。多くの住民が参加し交流を深めた。	生涯学習推進課 教育事業費
計	6,188			事業提案限度額	8,731千円	次年度繰越金額	2,543千円				

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成24年度執行）

石橋南地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
地域コミュニティ紙等発行事業	251	補助金 251	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を発行する。	地域コミュニティ紙を各戸配布によりコミュニティの活動の理解が深まる。	地域コミュニティの活動の理解が高まってきている。 地域コミュニティの活動に参加したいと言う人が出て来ている。	今後もコミュニティ紙をカラー刷りにすることで、読みやすく、解りやすく、親しんでもらえる、コミュニティ紙にしたい。 平成25年度からコミュニティ紙編成メンバーを増やしより良いコミュニティ紙に取り組むことにした。			今後も継続して発行し、より一層の広報活動に活用されたい。	地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
ハザードマップ作成事業	250	補助金 250	石橋南地域版ハザードマップの作成により、災害時における避難場所の確認など地域住民が安全対策を再確認する機会とし、不測の事態に備える。	石橋南地域版ハザードマップの作成により、災害時における避難場所の確認など地域住民が安全対策を再確認する機会として不測の事態に備える資料が少なかった。	地図を見て必要な物や分かりやすく、見ることの出来るマップとなっている。	現在は、防災訓練時にマップを利用して効果を発揮している。	利用価値が大きければ数年後に再版を考えている。			地域を熟知する協議会によるハザードマップの作成により、今後万が一災害が発生した時被災につながることを期待する。	危機管理課 安全防災事業費
防犯カメラ維持管理事業	167	電気使用料30 設備保守点検委託料137	校区に設置した防犯カメラの維持管理を行う。引き続き地域内の犯罪の抑止と住民の安全・安心な生活環境を確保する。	校区内設置されているカメラの維持管理を行い、犯罪の抑止と子供の安全、安心の確保を図る。	校区内における犯罪が多く昨年に続き本年も、設置後防犯カメラの開示要請があり、警察、防犯カメラ運営委員会で模索研究する。増設に伴い維持管理の負担が大きくなる。	開示要請は無いほうがよいが、目的が達成でき、設置の稼働に意味深いものがあった。	防犯カメラ設置の操作方法を、短時間で開示できるよう運営委員会で模索研究する。増設に伴い維持管理費の負担が大きくなる。			防犯カメラの運用が、犯罪の抑制に繋がっているとの声があり、適切な管理による今後の犯罪抑制に繋がることが期待する。	危機管理課 安全防災事業費
地域行事等活動推進事業	130	補助金 130	地域で開催される行事等を主催する団体に、活動推進に係る支援を行う。	地域で開催される行事等を主催される団体に、活動推進に係る補助を行う。(石橋まつり)	地域で開催される行事に補助金として支援する。	地域だけの行事(祭り)でなく、池田市全域にわたる伝統行事となっている。	地域で開催される行事が、親睦と人の交流との中にあって、安全対策が必要である。			毎年恒例行事として地域のにぎわい創造の一助となっており、更なる発展を期待したい。	観光・ふれあい課 地域活性化事業費
石橋駅前アーケード看板維持管理事業	30	光熱水費 30	石橋駅前に設置したアーケード看板に常時照明をつけることにより駅利用者等の視認性を高める。							石橋駅界隈の通行者の視認性を高めた。	地域活性化課 地域活性化事業費
商店街地名・方向指示タイル設置事業	1,608	請負費 1,608	商店街通りに地名・方向指示のタイル盤を設置し、来街者の行先案内表示等を行い、地域の活性化と安心なまちづくりを構築する。	阪急石橋駅西口の改札を出た先の、進行方向が来訪者に地名や、方向を分かりやすくして、地域の活性化や安全な街づくりの必要がある。	人の流れが良くなってきている。	路面に書かれているタイル盤を見て人の流れがめだっている。	タイル盤の活字を常に鮮明にしておく必要がある。	各部会でまとめられたものを協議会で決定する。	駅前を地域内に含む特性から、防犯や安全に関する事業を多く実施されている。今後も地域の特性とニーズに沿った事業の実施を期待する。	石橋駅の外来者にとって、分かりやすい道案内に資することができた。	地域活性化課 地域活性化事業費
石橋南小学校西側用水路利用扉設置事業	1,550	修繕料 1,550	用水路利用開閉扉及びはしごを設置し、安全な作業環境を確保する。また、水門を塗装することにより長期耐用を図る。	災害時に用水路の水を利用したいが用水路には安全柵があるため水路内に入ることが出来ない様になっている。	用水路の安全柵の4ヶ所に扉をつけ水路を堰きとめ災害時にその水を利用できるようになった。	災害時に用水路の水利用がすばやく対応できる。	水路の堰きとめには、注意しながらこうどうすることが、大事です。			災害時に利用する用水路の防火・防災用水の取水のため、水路柵を一部、門扉に変更した。防災訓練も実施しており、地域の防災力向上に寄与に繋がっていると思われる。	みずとみどりの課 土木事業費
石橋前池公園電波時計設置事業	200	修繕料 200	既設ポールに電波時計を取り付け、来園者に時刻を知らせる。	石橋前池公園の利用者にとって時刻がわからない。	公園で遊ぶ児童や地域の人々のために、必要である。	見やすい時計なので、時刻の判断よくわかる。	時計に時刻を知らせる音楽が出る方が必要になるのではと思う。			地域住民が時刻確認することができ、帰宅時間や予約時間の参考となり、利便性が向上している。	みずとみどりの課 土木事業費
道路安全対策事業	2,610	請負費 2,610	旧西国街道及び神田石橋線の一部にグリーンベルト歩行帯を設けることにより、歩行者・運転者の安全意識の向上を図る。バス、自動車の通行道路で歩行者の交通危険度が高いところである。	旧西国街道の歩行者の交通安全を守るために、必要な道路である。歩行者・運転者の安全意識良くなっている。	昨年に続き残り半分の事業です。旧西国街道の歩行者の安全のためグリーンベルト歩行帯を作る。車の運転手の安全意識が変わった。グリーンベルトをひくことで車の通行にも歩行者意識が高くなってきている。	グリーンベルトをひくことにより車の走行に注意力が変わった。歩行者や自転車の通行にも安全意識が高まった。周辺道路の清掃活動と巡回点検が必要。	舗装工事された時グリーンベルトが消される必要がある学童通学道路の狭い所が多いので、その対策を考えるべきと思う。			歩行者の通行帯確保による安全意識の向上及び通行車両への運転マナーの向上に一定の効果があったと考えている。	道路課 土木事業費
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金 200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の向上に努める。	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の向上につとめる。	校区で開催される市民レクリエーション大会の運営費の補助を行う。	地域住民の健康づくりと、交流の深め楽しい憩いの場とする。	地域住民の多くの人々参加が望まれる。			スポーツ推進委員が中心となり実行委員会を組織し開催する。多くの住民が参加し交流を深めた。	生涯学習推進課 教育事業費
計	7,096		事業提案限度額 8,802千円	次年度繰越金額 1,706千円							

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成24年度執行）

鉢塚・緑丘地区コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管科目(目)
	説明										
地域コミュニティ推進協議会事務事業	50	交付金 50	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
地域コミュニティ紙等発行事業	200	補助金 200	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	例年、当コミュニティ推進協議会の提案事業、地域のイベント、防災キャンペーン等の内容で4000部を発行し、校区内の全戸配布を実施している。	24年度は、花しょうぶ祭りでの野点、緑丘2丁目公園のリニューアル、一部通学路のグリーンベルト化、フクワクどきどき探検隊、星座観察会、オオクワガタムシ育成講習会、音楽の宝石箱、水月児童文化センター前でのミニコンサートとフリーマーケット等の当コミュニティ推進協議会の提案事業の紹介のほか、交通安全や防災キャンペーンなどを報じたHAMICを3回(毎回4千部)発行し、地域の全戸に配布した。	花しょうぶ祭りでの野点では、HAMICに印刷された高齢者招待券を利用された方が数十名あった。	今後とも地域密着型の記事を報道し、地域分権の普及及び地域活性化の一助とする。			広報紙に様々なアイデアを盛り込みPRされている。今後も継続を期待します。	地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
地域イベント開催事業	650	補助金 650	移動動物園と野だての会を開催し、花しょうぶ祭りを来園者に楽しんでもらう。また、水月児童文化センター前をいこいの広場として定着させコンサートやフリーマーケットを開催する。	1)23年度は、当コミュニティ推進協議会と水月茶の湯の会で野点を復活させ、多くの方に楽しんでもらうことができた。 2)移動動物園では、毎年実施しており、好評を得ている。 3)水月児童文化センター前の広場を、人々の交流の場とするため、野外ステージやテラスを準備した。	1)24年度は、約1200名の来園者に野点を楽しんでもらうことが出来た。また、地域の高齢者にとっても楽しい場となった。また、水月茶の湯の会の指導の下、約20名の地域住民がスタッフとして参加することが出来た。 2)移動動物園では多くの未就学児童が小動物との触れ合いを楽しんでいた。 3)水月児童文化センター前に完成した野外ステージを活用し、幼児向けのミニコンサートを開催し、同時に有志を募りフリーマーケットを実施した。	1)幼児から高齢者まで幅広い年齢層が楽しめる地域イベントとなった。	1)地域のイベントを今後も活性化するため、これらの事業を継続させることが必要である。 2)野点については、さらに多くの地元住民がスタッフとなり、運営を支えていく体制を構築する必要がある。			野点・ふれあい動物園ともに盛況で、多大な集客効果があった。	観光・ふれあい課 地域活性化事業費
AED管理事業	170	消耗品費 170	使用期限が切れるバッテリー(2台)パッド(3台)の交換を行う。	1)以下の3箇所に設置したAED部品の使用期限切れに伴う交換が必要であった。鉢塚会館(成人用パッド)、アルビス緑丘(成人用パッド、小児用パッド、バッテリー)、水月児童文化センター(成人用パッド、小児用パッド、バッテリー)	1)予定通り交換を実施した。	1)AEDの健全性を回復した。	1)期限管理を確実に行う。			引き続き、AED設置・管理要領に基づき、維持管理、救命講習の実施に努めていただきたい。	健康増進課 保健福祉事業費
公園施設改修事業	4,229	請負費 4,229	緑丘2丁目公園施設の改修と健康器具の設置を行う。	緑丘2丁目公園は、遊具の老朽化が激しい上、水はけや美観も悪い状況であった。また、就学前の子どもの利用が多にかかわらず、幼児向けの遊具が少なかった。	第一段階として、旧式の遊具を撤去し、水はけを改良した。また、花壇を設置し、明るい公園に回帰した。更に、付近の住民有志が、清掃グループを作り活動を開始した。	公園全体が明るい雰囲気となった。	第二段階として、新しい遊具を設置する。また、他地域の公園についても、検討を進める必要がある。			老朽化していた公園内の施設を改修することで、入りやすく、使いやすい公園となった。	みずとみどりの課 土木事業費
昆虫育成講習会実施事業	460	補助金 460	親子で参加するオオクワガタの飼育講習会を開催し、自然環境の保持と昆虫の育成を学ぶ。	1)例年、カブトムシ育成講習会を開催し、生命の大切さ・生命を育むことの素晴らしさを伝えてきた。	1)本年はオオクワガタムシ育成講習会を特定非営利活動法人NPOクワガタ探検隊に委託し年3回実施した結果、毎回50組約130名の参加者があった。	1)未就学児童から小学生までが、オオクワガタムシ育成講習会を楽しむと共に、生命の大切さを学んだ。また、講習会を通じて親子のコミュニケーションが活発に行われた。	1)受付時の混雑解消等、事業運営の円滑化を図る。	各部会でまとめられたものを役員会で決定する。	ふるさと再発見事業や花しょうぶ祭りなど多くの集客がある事業を実施されている。今後も地域住民の意見を集約し効果的な事業を実施されたい。	みずとみどりの課 土木事業費	
道路安全対策事業	2,000	請負費 2,000	グリーンベルト歩道帯を設けることにより、歩行者・運転者の安全意識の向上に努める。	1)業務スーパー前の道路は、緑丘小学校の通学路であるが、白線で舗道との境界を示しているのみのため危険な状態であった。	1)業務スーパー前の道路が、舗道としてわかりやすくなった。	1)舗道帯をグリーンベルト化したため、特に通行人とすれ違う際、車両がスピードを落とすケースが増えたようである。	1)業務スーパー前の駐輪が常態化しているため、その部分だけは危険な状態が続いている。その結果、通学路としては機能していないのが現状である。粘り強く当該事業者に、駐輪場の確保を要請する必要がある。			歩行者の通行帯確保による安全意識の向上及び通行車両への運転マナーの向上に一定の効果があったと考えている。	道路課 土木事業費
ふれあい講習会開催事業	500	補助金 500	星座観察会を通じて親子のふれあいの場を提供する。子どもたちに、本格的な音楽に接する機会をつくるためのイベント「音楽の宝石箱」を開催する。	1)例年、夏は体育館でのイベントと天体望遠鏡による星座観察、冬はプラネタリウムと天体望遠鏡による星座観察を行ってきた。 2)地域イベントの「ふれあいフェスティバル」の午後の部として音楽の宝石箱を企画し、大阪音楽大学の協力を得て実施してきた。	1)屋外での星座観察に加え、体育館でのスライドショーや紙飛行機飛ばし大会またプラネタリウムを親子参加型で開催した。 2)今回は、関西を代表するオペラ歌手の生の歌声楽しんだほか、歌手の指導の下、参加している子ども達を含め全員で第九をドイツ語で大合唱した。	1)未就学児童から保護者まで幅広い年齢層の参加者延べ310名が楽しめる教育イベントとなった。 2)約140名の参加者が、プロの迫力ある歌声を堪能した。また、親子に馴染みのある楽曲の合唱を楽しんだ。アンケートでも、来年の開催を要望する声が多かった。	1)地域の児童科学教育として、本事業を継続させることが必要である。 2)今後も、子供から高齢者まで幅広い年齢層が楽しめる内容とする。また、参加者の更なる増加を図る。			毎年実施の「星空観察会・音楽会」を年毎に趣をこめて実施していることが評価できる。	生涯学習推進課 教育事業費
ふるさと再発見講座開催事業	330	補助金 330	わが町に愛着、誇りが持てるように池田の歴史や自然を再発見する講座を開催し、同時に親子ふれあいと地域住民のコミュニケーションを図る。	1)池田について学ぶのは、小学3年生以降の授業の中であるが、実地に現場へ出かける機会は限られている。 2)空港見学を取り入れてから、応募が、募集定員の3~4倍に急増しているため抽選を行っているが、附属小の児童数が緑丘小の約2倍のため、緑丘小の当選者が数が少なかった。	1)本年も昨年同様、募集定員の約3倍の応募があったが、抽選方式を改め、各校の定員の1/2づつを割り当てる事とした。 2)本年も企画段階および実施段階の両面で、緑丘小・附属小の教員の協力を得ることができた。	1)児童の日常会話の中で、大阪空港や整備工場等「ふるさと池田探検隊」で訪問した場所について語られていることから、一定度の効果があったと思われる。 2)空港見学は、依然として多くの関心を集めている。	1)空港見学は、平日でしか実施できないため、夏休み期間中の事業としているが、学校行事と重ならないよう留意しながら、今後もできるだけ実施回数を増やしたい。			池田市内の施設見学は見識を広めることとなり評価できる。	生涯学習推進課 教育事業費
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金 200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。地域コミュニティ意識の高揚に努める。	1)例年、地域住民が気軽にスポーツに親しむ機会となるよう、また、住民の体力・健康づくりの場となるよう、緑丘小グラウンドにて運動会を開催している。	1)本年度も、鉢塚・緑丘地区コミュニティ推進協議会の支援事業として開催し、多数の参加者を得た。	1)子供から高齢者まで幅広い年齢層の参加者が楽しめ、かつ体力と健康づくりの地域イベントとなった。	1)地域のスポーツイベントとして、本事業を継続させることが必要である。			スポーツ推進委員が中心となり実行委員会を組織し開催する。多くの住民が参加し交流を深めた。	生涯学習推進課 教育事業費
計	8,789		事業提案限度額	8,810千円	次年度繰越額	21千円					

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成24年度執行）

神田地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
	説明										
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
地域コミュニティ紙等発行事業	500	補助金 500	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	事務費予算の範囲内で年1回発行。(白黒印刷)	カラー刷りの広報紙を、年3回地域内全戸配布できた。(22年度以降継続)	各種地域内団体の活動紹介をとりあげることで、回数もふえたので地域への活動内容のPRができた。	新規協議会メンバー・安全パトロールボランティアをけいぞくして広報紙で募集を続けることが必要。			広報紙でのPRを通じて、協議会活動がより一層活発になることを期待します。	地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
地域内会館備品整備事業	5,020	庁用器具費 5,020	地域内会館の備品の軽量化で利用者の利便を図るため、会議用机・椅子の入れ替えを行う。	地域内会館の机・椅子等が旧式で重く、高齢者等が準備に苦労していた。	机についてはキャスター付きの折りたたみ式に変更、一部会館では合わせて椅子も軽量化のものに取替を実施した。	高齢者等の机椅子等の準備作業が大幅に軽減された。	椅子の軽量化がすすんでいない会館について、必要性の検討が必要。(費用効果の見極めが必要)			会館利用の実情に合わせ備品等を整備された。今後も会館を有効に活用されたい。	地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
安全パトロール実施事業	70	補助金 70	地域の安全・安心の向上に 대응するため、パトロール隊が電動自転車で行う。	PTAによる登校時の見守り活動は通学路を中心に実施されていたが、下校時を含め校区全体の安全パトロール体制がなかった。H20年度からパトロールを開始することになった。	電動自転車による安全パトロール体制ができ、ボランティアを中心に下校時の校区安全パトロールが実施された。(平成21年1月以降)平成23年度につづき、継続実施できた。	安全パトロールによる直接の目に付く効果は無いが、地域住民に少しづつパトロール実施が認識されてきて、防犯意識の向上に役立っている。電動自転車3台追加購入し、小柄な人でも参加できるようになった。	ボランティア人員の確保・増員(現状15名)が必要。		今後ともパトロール活動の強化に努めていただきたい。	危機管理課 安全防災事業費	
自主防災会資機材整備事業	880	機械器具費 880	自主防災会の財源の関係で、炊き出し用の「炊きかきレンジ」がなかった。	組み立て式の炊きかきレンジを購入、自主防災会の備品倉庫に保管している。	防災体制の強化に繋がった。24年10月の防災訓練で展示、25年3月には住民を集めての炊き出し訓練を実施した。	自主防災会の資機材については、継続して必要なものを検討する必要がある。			地域内の防災備品を適切に配備・管理することができ、万が一の際に適切な利用されることを期待する。	危機管理課 安全防災事業費	
地域行事等活動促進事業	200	補助金 200	地域で開催される盆踊り等の行事を支援し、コミュニティ意識の高揚を図る。	神田小学校校区盆踊り大会が、地域の寄付・市からの定額支援で実施されており、出店等の収益で予算不足をカバーしていた。	市からの定額支援より多くの金額の支援ができた。	地域行事の活性化が図れた。	毎年、助成必要金額の検証が必要。		地域の発展に寄与しており、更なる交流が期待される。	観光・ふれあい課 地域活性化事業費	
神田東公園整地事業	30	補助金 30	地域の交流の場を設けるため、公園用の土を購入し利用者が整地する。	雨水の流れ込み等で、路面に凹凸が目立っていた。	整地用の土を購入し、路面の整地を実施した。	老人会を中心とした地域交流の場として活用されている。	追加購入の必要性をチェックすることが必要。		公園内の広場に、真砂土を敷き均し、整地をおこなうことで、使いやすさが向上した。	みずとみどりの課 土木事業費	
水路転落防止看板設置事業	50	補助金 50	水路の危険箇所、水路転落防止対策の看板を設置する。	農業用水路に転落防止柵がない箇所が多い。(PTAアンケート調査でも指摘)	平成20年度申請で未実施箇所の防護柵設置がすべて完了。24年度は追加で、水路の危険箇所1か所に注意喚起の看板を設置した。	実施した場所については水路等への転落の危険は減少した。	道路側溝の深い箇所への対策の検討が必要。(通学路の危険箇所を中心に側溝に蓋を設置する等)		水路柵に転落注意啓発看板を設置することで、子どもたちに危険な場所であるということを認識させることが出来ている。	みずとみどりの課 土木事業費	
街路灯強化事業	24	電気使用料 24	夜間の事故や犯罪を未然に防ぐため、既存の街路灯の照明を維持する。	街路灯不足・照度不足が多く指摘されていた。(放火事件発生を受けた自主防災会・消防団による夜間パトロールで指摘)	20年度に町会・自治会からの要望のあったものを中心に、街路灯新設・照度アップを実施、校区内の夜間が明るくなった。	校区内の夜間が明るくなったことにより、放火等への牽制効果が出ていると思われる。	町会・自治会組織の無い地域の街路灯強化が必要。継続して街路灯設置要望を受け付けるようPRも必要。農地隣接の場所等に設置する場合は、高さ・向き等の調整が必要。私有地に設置の場合地主の承諾書が必要となったが、地主をどのように調査するか検討が必要。		街路灯の新設により、地域内の夜間交通の安全確保が図られている。	道路課 土木事業費	
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金 200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の高揚に努める。	神田小学校区住民運動会が、地域の寄付・市からの定額支援で実施されており、予算不足を盆踊り収益等でカバーしていた。	市からの定額支援より多くの金額の支援ができた。	地域行事の活性化が図れた。	毎年、助成必要金額の検証が必要。		神田スポーツ振興会が中心となり実行委員会を組織し開催する。多くの住民が参加し交流を深めた。	生涯学習推進課 教育事業費	
学校体育館施設開放支援事業	900	器具費 350 補助金 550	学校体育施設開放事業に対して運動用備品等を購入し、活動の充実を図る。	運動用備品の消耗・老朽化が目立っていた。	バトミントンネットの支柱ほか不足備品を購入した。	体育館施設開放活動がより充実したものになった。	消耗品的な備品については定期的に必要性のチェックが必要。		道具の有効活用・管理の徹底を望む。	生涯学習推進課 教育事業費	
キッズランド用備品購入事業	150	消耗品費 150	キッズランド用備品を充実させる。事業内容の拡充と参加者の増加を図る。	キッズランドのパソコン教室用備品が不足し、十分な活動ができなかった。	パソコン教室として必要なトナー、用紙類を支援することにした。	パソコン教室事業の充実及び参加者の増加が図れた。	毎年、助成必要金額の検証が必要。備品購入必要金額の検証が必要。		「キッズランド」のパソコン教室に必要なプリンター用インクや用紙は、参加者の活動に必要な不可欠な物品であり、活動の充実や参加者の増加につながっており、有効な事業として評価できる。	教育センター 教育事業費	
計	8,124		事業提案限度額 11,536千円	次年度繰越金額 3,412千円							

各部会からの報告を受け、役員会でまとめられたものを総会で決定する。

地域内会館を利用しやすい会館とするため、利用者のニーズ把握に努められている。今後もより一層の意見集約を期待する。

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成24年度執行）

伏尾台コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
	説明										
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
地域コミュニティ推進協議会拠点運営事業	50	補助金 50	地域住民への協議会活動及び地域分権のPRを目的として協議会活動の運営を行う。	コミュニティ推進協議会の活動拠点として事務所設置を行った。伏尾台周回道路沿いで西公園南側と目立つ場所に看板と掲示板を設置して広報を行い、これを維持している。	事務所設置後に、協議会の役員会議を定期的に開催している。また、地域の「防災・防犯委員会」の活動拠点として、会議開催の他、年末の防犯防火の巡回拠点として活用してもらっている。さらに、地域内に季節毎の花を植える活動を行う社協の「花の会」の活動拠点として利用してもらっている。	伏尾台地域に入っすぐの目立つ立地条件のもと、コミュニティ推進協議会はもとより、防災・防犯委員会並びに社協の花の会の活動拠点として、それぞれ活用されている。WebでのGoogle地図にも「伏尾台コミュニティ推進協議会」と表記され、そのストリートビューには黄色い看板が目立っている。	建築後30年以上経過している簡易型の建物であることから、雨漏りや結露が著しく、書類の保管ができず、いわゆる事務所としての機能を発揮させることができないため、会議開催程度のかつようしかできない。特に屋根の損傷が進行してさらにひどく漏るようになってきた。			コミュニティの拠点事務所として使用されている。 みずとみどりの課 土木事業費	
地域掲示板改修事業	325	修繕料 325	地域内に設置された掲示板(8ヶ所)を改修、撤去し、景観と利便性の向上を図る。	伏尾台の各丁目毎の自治会ではそれぞれ複数箇所に設置されている掲示板を活用して会員への情報伝達を行っているが、掲示板自体の老朽化あるいは放置されようされていないものがある旨の報告が、本協議会の「まちなみチェック委員会」からあった。そこで自治会連合会へ掲示板の使用の実態報告を要請した。各自治会からの調査報告により、3か所の掲示板の撤去、5か所の掲示板の修正を行うこととなった。	人通りの頻度等から設置並びに掲示効果が少ないと見られる3か所では、老朽化した掲示板を撤去した。人通りの頻度等から設置並びに掲示効果が高いと見られる5か所の老朽化した掲示板を改修し、管理得責任者を明示するため、協議会名を表記した。	撤去した箇所では、景観がすこぶる向上したとの評価を近隣住民から戴いた。改修した掲示板箇所では、掲示物の貼り付け作業性の向上はもちろん、雨水の影響も軽減されるため、視認性が向上し長期間の掲示が可能になった。	改修した掲示板に管理責任者の協議会名を記載したため、各丁目の自治会が使用してよいか否かの疑義が生じるとの指摘があったため、平成26年度で各自治会名を記載したい。平成24年度では、バス周回道路を除く地域の掲示板を対象としていたが、バス周回道路の停留所に設置されている掲示板の使用頻度が高く、20年以上経過している板面の損傷が激しいので、それらの改修を望む声が高い。			掲示板を設置することにより地域内の広報活動に大きく寄与することを期待する。 地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費	
安全パトロール実施事業	450	修繕料 60 保険料 22 自動車重量税 9 補助金 359	地域安全パトロールを実施し、地域の安全・安心の向上に応える。	実施前は小学校の登校時に、主に民生委員等による見守りがあった。平成20年9月より実施し、当初小学校の登校時を中心に、平成20年は1回1時間、1日6回のパトロールからスタートし、平成21年より1日4回に組み直して実施した。	本年度は、小学校の曜日ごと、学生ごとの下校時刻の違いに応じてより細かくパトロールスケジュールの見直しを行い、小学校の登校日に、1回1時間、1日2~3回のパトロールを実施した。	朝のパトロール時には、小学生に挨拶の声掛けを積極的に行ってきた結果、中学生、出勤の人まで挨拶を交わすことができるようになり、さらにこの挨拶が大人同士も浸透して、近隣の目が空き巣等の防止につながり、防犯カメラ事業との相乗効果もあり、ここ4年連続して空き巣犯罪“0”を更新できている。	毎年10名前後の隊員の入れ替わりがあること、さらに隊員が増員しても乗務希望の曜日と時間が重複することが多く、一方、夕刻以降の乗務希望者が減少して、運行スケジュールを組むことが事務担当者の大きな負担となっている。隊員は実施者証を携帯しなければならぬが、2年毎の更新講習会の開催手配と、新入隊員への受講手配、保険加入申込み等が増加し事務担当者の負担が増大してきた。			日々の地道な活動の成果により、小学校区でのパトロールの認知が高まってきている。今後ともパトロール活動の強化に努めていただきたい。 危機管理課 安全防災事業費	
防犯カメラ設置事業	2,000	電気使用料 42 保守点検委託料28 購買費 1,139 補助金 791	防犯カメラの増設を行い、空き巣等の犯罪抑制を図る。また既存の防犯カメラの保守管理を実施する。	H22年度、伏尾台地域は出入りできる道路が国道側と川西側の南北の2か所しかない特殊性を利用し、その2か所を通過する車の全てを撮影できるように2台ずつの防犯カメラを設置した。また、同時に第2コミセン南側と細河中学校の南側交差点にダミーの防犯カメラを設置するため、ポールを立設した。	第2コミセン南側と細河中学校の南側交差点に立設していた防犯カメラ用のポールに、各2台ずつの防犯カメラを設置した。先に設置した伏尾台地域への出入口である南北2か所の2台ずつの防犯カメラと併せて8台が設置され、地域に出入りする車両はいずれかのカメラにもれなく撮影され得る状況となった。	各防犯カメラとレコーダーはメンテナンスされて地域に出入りする車両の画像を良好に記録でき、また、警察の捜査にも活用されている。同時に実施している安全パトロール事業での青パトロール車の巡回、地域内の防犯防犯委員会並びに自治会の防犯活動と相まって、4年連続して空き巣事件“0”を更新できている。	これまでに、池田署より捜査のため記録開示の要請が5件あった。市危機管理課と協議会の委員会立会いのもと開示した。しかし、現場での立会い者は日時や天候にかかわらずに長時間を強い負担が大きく、SD式のように記録媒体を取出し、屋内でPCにて記録開示できる形式が望ましい。防犯カメラの設置並びにその維持に対して、住民の認知度は上がり、新たに北高校周辺に増設を望む声がある。			適切な管理による今後の犯罪抑制に繋がることを期待する。防犯カメラ本体においても一部劣化が確認できるため、今後の維持管理が重要になってくるものと考え 危機管理課 安全防災事業費	
防犯防災啓発事業	300	機械器具費 200 補助金 100	年末の防災訓練用発電機と巡回パトロールを啓発するための用品を購入し、地域住民の防犯・防災意識を高める。	防災・防犯委員会は、自治会連合会より配分される50円×1350戸の予算で運営されるが、毎年の戸数減で運営費が厳しい状況にあった。毎年12月の総合防災訓練での費用も毎年参加人数が300名を超えるため嵩むが、自治会からの配分予算では厳しい状況である。また、自治会主催の夏祭りでは、会場周辺の交通整理と警備を請け負い、毎回70人超の委員が時間差で参加するが、より安全に歩行者を誘導できるように、通行止め区間における照明等が確保されることが望ましい。	ガスボンベによる発電機2台を導入でき、自治会主催の夏祭りに際して、全く街灯がない2か所で投光器を点灯して交通整理を行うことができた。又、青色パトロール車も夕刻より1回50分4回のパトロールを実施した。12月2日(日)の総合防災訓練には、補助金を訓練活動の諸費用に活用することで、約350名の住民が参加して7項目の訓練を行った。	自治会主催の夏祭りでの通行止め区間の始終端箇所での夜間照明が確保されたが、駐車場入口となる小学校裏門、北高等学校においても夜間照明が確保されることが望ましい。総合防災訓練時の引率リーダーの養成のために、独自の教育カリキュラムとして、人と防災未来センターや各種防災施設の見学会を開催したいとの要望があった。	夏祭りでの通行止め区間の始終端箇所での夜間照明が確保されたが、駐車場入口となる小学校裏門、北高等学校においても夜間照明が確保されることが望ましい。総合防災訓練時の引率リーダーの養成のために、独自の教育カリキュラムとして、人と防災未来センターや各種防災施設の見学会を開催したいとの要望があった。			防災訓練を実施することで、今後万一が災害が発生した時減災につながることを期待するとともに、防災備品の適切な管理・運用を行い、万が一の際に利用できることを期待する。 危機管理課 安全防災事業費	
地域行事等活動促進事業	250	補助金 250	地域の夏祭り開催費用の一部を支援する。行事を通して、住民間の交流拡大に努める。	自治会連合会が主催する夏祭りは、各丁目の自治会の会員数に応じた分担金で運営されるが、会員数の減少が進む自治会が増える中、総額を抑えても予算配分に苦慮している状況にあった。夏祭りの一環として子供会が行う御神輿巡行の費用を自治会連合会が負担し、同様にこの予算化についても困難になってきた。	自治会連合会は、盆踊りを行うための予算を、本補助金で充填することができ、又、子供会では本補助金で子供御神輿巡行を行うこと雅でき、その結果、自治会連合会では子供御神輿巡行の負担金もなくなり、予算を圧迫することなく、例年通りの夏祭りを開催することができた。	地域住民の高齢化と少子化が進む中でも、伏尾台にも多くの子供が住んでいるなど感じられ、地域へ帰省中の若い親子連れも目立つとの印象を持ち、開催して本当に良かったと、夏祭り実行委員会のメンバーがそれぞれ口にするほど、盛況な夏祭りとなった。	自治会連合会では、毎年入れ替わる班長、役員で実行委員会を組織して夏祭りを開催し、これが相応の負担で、自治会脱会の主因となっているので、開催経験のある固定の人員で構成される実行委員会が組織されることを希望する声が多い。また、子供会の入会には家庭が自治会員であることが求められ、年々入会する子供が減少し、両者が減少の悪循環となっている。	関係者の意見を参考にして、役員会でまとめる。	地域特性を取り入れ、幅広い分野での事業が行われている。地域特性と地域住民の意見集約により効果的な事業の実施を期待する。 地域発展に寄与しており、更なる交流が期待される。 観光・ふれあい課 地域活性化事業費		
伏尾台地域活性化事業	250	補助金 250	地域住民を対象としたミニコンサートなどのイベントを実施し地域の活性化を図る。	伏尾台センターは、バス停ロータリーがあり、マンションとその1階に商店街、夢の広場と称されるマンションに挟まれる公園、そして第1コミセンが隣接されており、地域の最盛期には大変なにぎわいがあった。しかし、現在では、閉じられた商店のシャッターが散見される寂しい所となった。	伏尾台センターにかつてのにぎわいをと、住民が楽しめるコンサートとして4回の「ふしおだい山びこフェスタ」を夢の広場公園、第1コミセン大集会所で開催した。5月26日「フリーマーケットと吹奏楽そしてジャズコンサート」6月30日「パロック音楽の夕べ」11月17日「ボーカルコンサート」11月17日「ボーカルコンサート」3月9日「落語の会」	開催参加を参加人数(1時間毎の最大ピーク人数)で評価する。5月26日フリーマーケット200人、吹奏楽100人、ジャズ180人6月30日雨天で室内、「パロック音楽の夕べ」110人11月17日雨天で室内、「ボーカルコンサート」75人3月9日室内で開催「落語の会」120人(満席)	1回あたり平均100人以上の動員が多いか少ないかは評価が困難ではあるが、毎回参加者にアンケート調査を、年齢、参加動機、参加回数、意見要望を記入する方式で行った。その結果、参加者は異口同音に伏尾台で音楽や落語が楽しめて良かったと言いつつ、今後も継続要望が多かった。しかし、ボランティアスタッフを集めるのが少なく、次年度は開催の内容、方法を吟味検討しなければならない。			参加者へアンケートを取り次回へつなげる姿勢は評価できる。今後、さらに地域を盛り上げるイベントとして発展することが期待される。 観光・ふれあい課 地域活性化事業費	

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成24年度執行）

AED管理事業	69	消耗品費 69	地域に設置されたAEDのバッテリーと電極パッド（2台分）の使用期限到来に伴い、購入する。	4年前に阪急バス車庫事務所、伏尾台センターコープ店舗内に設置した。これまで使用されたことがないが、緊急時に備えてメンテナンスが必要である。	阪急バス車庫事務所に設置したAEDで、使用期限が迫った電池を交換し、使用可能な状態を維持した。なお、伏尾台センターコープ店舗内に設置したAEDで、使用期限が迫ったパッドを交換し、使用可能な状態を維持した。	午前10時から午後10時まで閉店しているコープ店舗内と、24時間常駐されている阪急バス車庫の事務所に、AEDが使用可能な状態で常備されることになった。	地域住民へのAED設置場所の周知徹底を図ること。毎年12月に、総合防災訓練で使用体験を実施しているが、別途、使用訓練の機会を設けること。定期的に設置状態の確認を行うこと。	引き続き、AED設置・管理要領に基づき、維持管理、救命講習の実施に努めていただきたい。	健康増進課 保健福祉事業費
子育て支援環境整備事業	80	補助金 80	幼児をもつ母親の子育て環境の改善とコミュニケーションの場づくりを行うため、用品等の拡充を図る。	平成22年度に伏尾台第1コミュニティセンター内の一室を使用し、幼児向けの備品を整備し、乳幼児を育てる母親に気軽に集まれる場所として提供し、これを運営する子育て支援グループを立ち上げた。その後も毎週、部屋が開設される日時を決めて、無料登録制で参加者を募集する方法で運営している。	幼児向け備品に加え、さらに体重計や遊具などの乳児用備品を整備し、さらに手ふき等の消耗品も整備した結果、気楽に集い親子共に遊び開放感を持てる部屋を維持できた。この部屋を卒業して、就園児となった親子へのサポートとして、卒業生の集いを開き、交流が途切れぬよう務めている。登録された親子は、50組、ボランティアは10名である。	整備した「ほっとルームフレンズ」で親交を深めた親子同士がお互いの家や公園に集い、グループで遠出できるようになり、子供と純粋に向き合い遊ぶ時間が持てる人間関係が築けるようになるなどの、初期目的である。密着育児で子育てストレスを溜めしてしまうことを防止できる環境を整備維持できている。	新たな未就園児の親子への広報活動並びに新規登録等の事務処理、さらに就園児となった親子らとの交流、相談で防れる母親への支援等を考えると、支援者の当番制を確立する制度が必要である共に、支援者が常駐できる常設の子育て支援の専用の部屋が、第1または第2コミセンに必要である。	子育て世帯が少ない地域であるが、丁寧なかかわりとつながり子育ての身近な居場所となっている。	子育て支援課 保健福祉事業費
公園整備事業	582	修繕料 582	伏尾台中央公園内にベンチ（5台）を設置し、利用者の快適性の向上を図る。	伏尾台の中央公園は、平成23年度予算でリニューアル工事が実施され、協議会からも高齢者用運道具並びに幼児用の遊具の整備を要望していた通りに改装され、アンケート調査の結果どおりに幼児と高齢者の利用が従来より増加していることが確認できた。リニューアル工事の際に、砂場周辺のベンチの設置と幼児用スプリング遊具の設置が要望されていたが、予算の都合で実現できていない。	中央公園のリニューアル工事で、子供用エリアに新たに設置された砂場の周囲にベンチを2台、幼児用スプリング遊具2機を追加設置した。	中央公園のリニューアル工事で、子供用エリアに新たに設置されてその利用者も増えた砂場ではあったが、その周囲には、子供を遊ばせる親が座るところもなかった。今回ベンチが設置されたこと、幼児が座って遊べるスプリング遊具の設置とが相まって、スプリング遊具の順番待ちができるほど、利用者が増大した。	協議会の子育て支援事業の担当者グループが、子供や親たちの意見を聞いて、子育て支援の視線で必要か不用品、便利か不便利かを検討し提案する公園整備事業であるが、伏尾台には大小21か所の公園があり、要望が多岐に亘るため、各整備要件に必要性和妥当性から優先順位を付けることに苦労している。	公園の利用者ニーズに応えるため、伏尾台中央公園にスプリング遊具1基とベンチ3基を設置し、多くの人に利用されている。	みずとみどりの課 土木事業費
街路灯強化事業	1,000	電気使用料 20 請負費 980	街路灯の充実を図り、夜間の事故や犯罪を未然に防ぐ。	伏尾台地域が完成してから25年以上を経過して、地域内に夜道の暗い箇所が散見されるという意見が多かったため、平成22年度より計画的に街路灯に優先順位を付けて年度ごとに順次照度アップを図ってきた。	協議会内に委員会を立ち上げて、照度アップが必要な箇所、新設が必要な箇所を、それぞれ地域住民がリストアップし、これに優先順位を付けて、予算内に収まるように1丁目から5丁目まで均等に割り振りを行い、蛍光灯の交換並びに街路灯の新設を7月に実施した。	当初、小学校の通学路として指定されている道路沿いや遊歩道については、ほぼ一定の照度アップが2年で完成したため、雨天の下校時、日暮れが早い冬の季節で、とても明るくなったとの感想を多く聞く、その一方で、相対的に暗く感じる箇所があるとの指摘があったが、本年度で街区に必要とされる照度アップはほぼ完成した。毎年の街路灯委員会での照度の検討が街並みのチェックを行うきっかけになり、地域の種々問題をより深く検討することができた。	現在の街区に必要とされる照度アップはほぼ完成したものと認められ、これ以上の照度アップは費用対効果が飽和状態となるので必要ないと考えられる。今後は街区の照明器具の経時経年変化等に注視して、定期的なチェックを行っていただきたい。	街路灯の新設により、地域内の夜間交通の安全確保が図られている。	道路課 土木事業費
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金 200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の高揚に努める。	伏尾台校区住民がスポーツに親しみ気軽に参加できる機会を設け、幼児から高齢者まで楽しみ交流を深めて地域の活性化を図る目的で、伏尾台校区市民レクリエーション大会実行委員会を組織し、自治会連合会の協賛のもと、伏尾台大運動会を行ってきた。各自治会の組織率の低下にともない、自治会からの参加者並びに協賛も大きく低下している。	自治会協賛金の低下を補う形の補助金として、必要な運営費用を賄うことが可能になり、参加者の高齢化と運動量の減量化を求め、参加者の高齢化と運動量の減量化を求め、各自治会の参加者募集の努力の結果、例年同様に参加者があり、盛況な運動会であった。	実行委員会並びに自治会連合会の役員、スタッフともに運営が積極的に行われ、また、各自治会の参加者募集の努力の結果、例年同様に参加者があり、盛況な運動会であった。	自治会連合会から実行委員会へは、盛況な運動会が開催できたことを喜び、他方、参加者の高齢化並びに運動量の減量化を求める意見が出され、現在の丁目毎のチーム編成やプログラムの大幅な見直しの申入れがあった。幼児から高齢者までスポーツを楽しむ交流を深めて地域の活性化を図る初期目的に立ち返り、参加人数を考慮した紅白対抗形式など、従前とは異なる別形態の運動会を模索していく必要がある。	伏尾台スポーツ振興会が中心となり実行委員会を組織し開催する。多くの住民が参加し交流を深めた。	生涯学習推進課 教育事業費
計	5,656		事業提案限度額 13,486千円	次年度繰越金額 7,737千円					
合計	86,964千円		事業提案限度額 107,103千円	次年度繰越金額 20,046千円					